



Kodak

i5000V シリーズスキャナー

KOFAX VRS Professional
スキャンセットアップガイド

コダック i5000V スキャナー拡張機能の使用

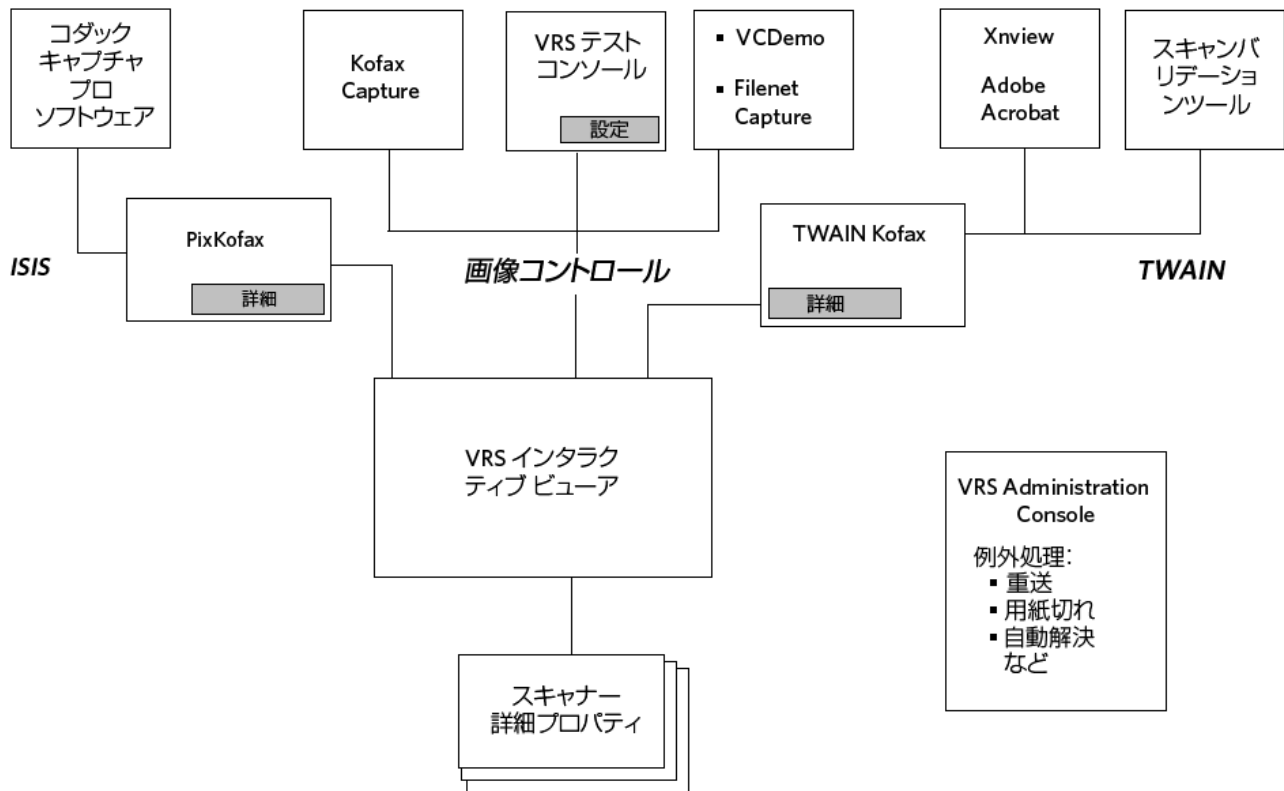
目次

VRS テスト コンソールからスキャナーの拡張機能を開く	3
VRS テスト コンソール	3
詳細プロパティ	5
[カラー] 画面	6
[四角形のピッキング] 画面	7
[回転] 画面	8
[カラーモードの切り替え] 画面	9
[カラーモードの切り替え] 設定	11
[インプリンタ] 画面	13
[テキストコントロール] 画面	14
注釈の定義	16
[重送] 画面	17
VRS Administration Console 重送エラー：介入	25
[一般] 画面	28
[バージョン情報] 画面	30
VRS Administration Console	31
ユーザー設定	31
エラー	33
ライセンス	35
[自動プロファイル]	35
[デバイス状態]	36
[スキャナー設定]	36
VRS ツールバー アイコン	38
画像コントロール (VCDemo)	40
PixKofax	45
PixKofax によるプリセットの設定	48
[プリセット] タブ	50
[詳細設定] タブ	51
[PixKofax メイン] タブ	52
[PixKofax VRS] タブ	54
[PixKofax インプリンタ] タブ	55
[PixKofax バーコード] タブ	56
[PixKofax パッチ] タブ	57
[PixKofax バージョン情報] タブ	58
TWAIN Kofax	59
TWAIN Kofax の [メイン] 画面	60

このガイドではコダック i5200V、i5600V スキャナー固有の機能について説明します。一般的な Kofax VRS® 機能に関する情報は含まれていません。一般的な VRS 機能については VRS のオンラインヘルプを参照してください。

ハードウェア VRS を搭載するコダック i5000V シリーズスキャナーは、スキャナーの機能と VRS オプションを設定する場所が、使用するスキャンアプリケーションの VRS に接続する方法によって異なります。画像コントロール アプリケーションは VRS に直接接続しますが、ISIS や TWAIN 用アプリケーションは PixKofax または TWAIN Kofax と呼ばれる互換レイヤを使用します。スキャン アプリケーションとそのインターフェイスの一例を以下に示します。すべてのアプリケーションで [VRS インタラクティブ ビューア]、[スキャナー詳細プロパティ]、[VRS Administration Console] を使用します。アプリケーションが使用するインターフェイスに応じて適切なセクションを参照してください。

注：VRS テスト コンソールは厳密には画像コントロール アプリケーションではありませんが、ここでは画像コントロール アプリケーションとして表記しています。



VRS の主な機能はいずれのスキャナーでも機能しますが、[詳細プロパティ] 画面の機能はスキャナーによって異なる場合があります。

* VRS は Kofax の登録商標です。

VRS テスト コンソールからスキャナーの拡張機能を開く

拡張機能のコントロールは、[Kofax VRS インタラクティブ ビューア] から使用します。以下の例では、[VRS インタラクティブ ビューア] を使用してスキャナーの拡張機能を開いています。この機能の開き方はアプリケーションによって異なる場合があります。

[VRS テスト コンソール]

注： [VRS テスト コンソール] は大容量スキャンアプリケーションとして設計されていません。スキャン最大枚数は 1 バッチあたり 99 ページです。[VRS テスト コンソール] は i5600V の [手差し] または [パネル給紙] モードの使用を禁止しています。[VRS テスト コンソール] の使用に関する詳細は VRS オンラインヘルプを参照してください。

[VRS テスト コンソール] から [VRS インタラクティブ ビューア] を起動するには：

1. Windows の [スタート] メニューから [Kofax VRS テスト コンソール] を選択します。

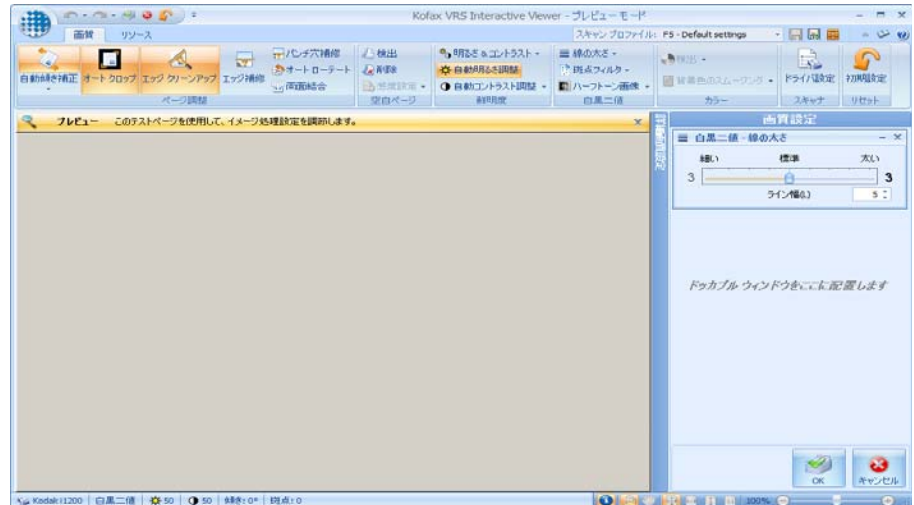


2. [選択] をクリック後、使用するコダックススキャナーを選択して [OK] をクリックします。
3. 通常は AIPE を搭載するスキャナーを選択します。AIPE とは追加のオプション（バーコード読取りなど）を使用するために固有のプロセッサを搭載した拡張イメージ処理エンジンです。

注：

- コダック i5000V シリーズ スキャナーには AIPE ライセンスが付属しています。
- VRS の設定は [Kofax VRS テスト コンソール]、[VCDemo]、[PixKofax]、[TWAIN Kofax 互換インターフェイス]、[スキャンアプリケーション] から設定できます。

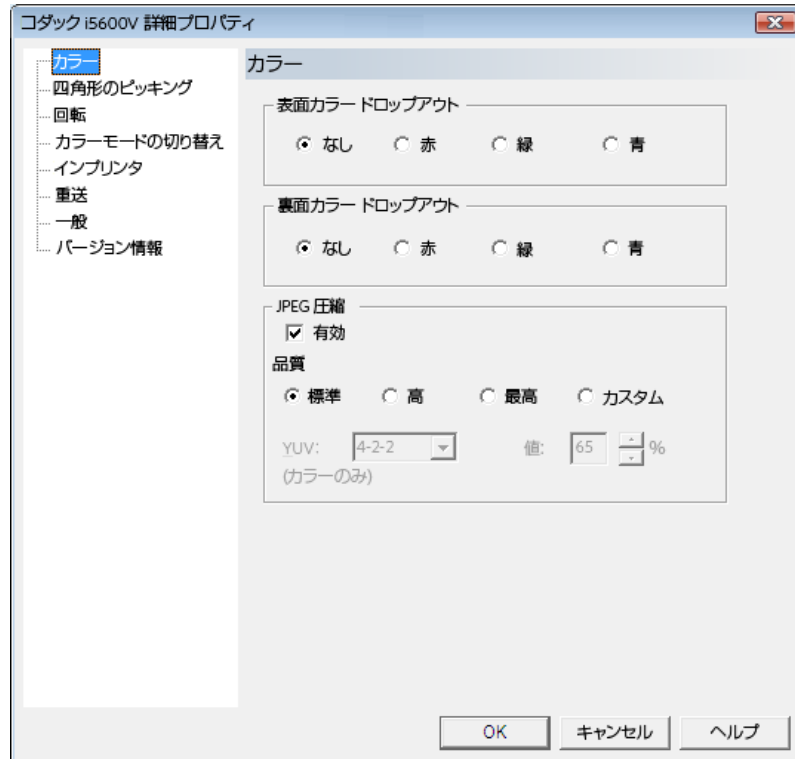
4. **【設定】** をクリックするか、**[F8]** キーを押して **【VRS インタラクティブビューア】** を起動します。



5. **【ドライバ設定】** をクリックします。**【詳細プロパティ】** 画面が表示されます。

詳細プロパティ

[詳細プロパティ] のいずれかを選択すると、画面の右側に設定オプションが表示されます。



以下のボタンはすべての [詳細プロパティ] 画面に共通のもので、

OK — 変更を保存して画面を閉じます。

キャンセル — 前回保存した設定に戻します。

ヘルプ — [詳細プロパティ] 画面に説明を表示します。

設定が完了したら、**[OK]** をクリックして現在のスキャンセッションの設定を保存します。

現在の設定を他のスキャンセッションにも適用する場合は、[VRS インタラクティブビューア] で **[保存]** アイコンをクリックします。

VRS は [詳細プロパティ] 設定を VRS プロファイルとして保存します。各プロファイルには個別の [詳細プロパティ] 設定が保存されます。現在の VRS プロファイルに設定が保存された場合、変更が保存されていないことを示す * (アスタリスク) がプロファイル名に付きます。変更が保存されていない VRS プロファイルでスキャンすることは可能ですが、アプリケーションを閉じると設定は元に戻されます。

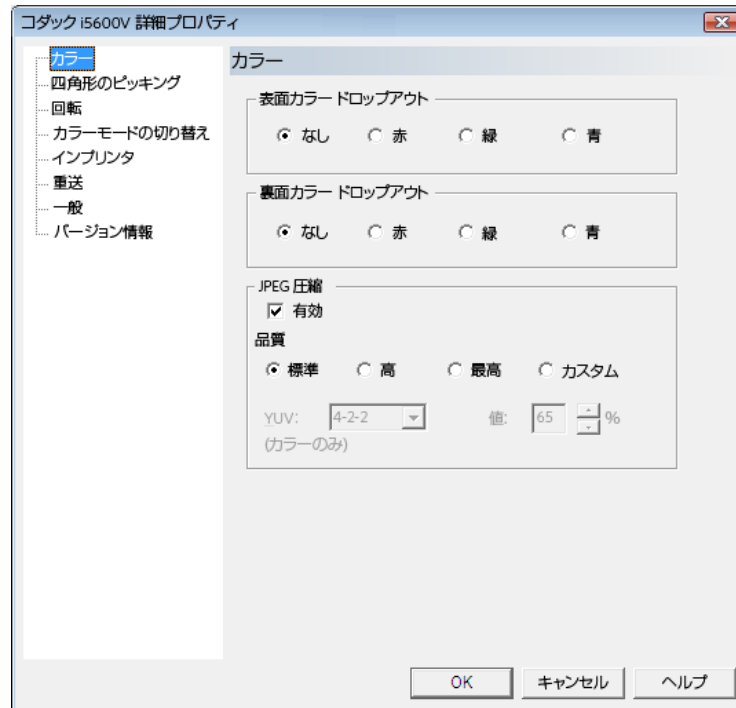
注：VRS プロファイルのファイルは拡張子 *.cps のファイルで、以下のディレクトリに保存されています。

Vista/Windows 7:

C:\Program Files\Kofax\imgctls\bin\Profiles

[カラー] 画面

[カラー] 画面は背景色のドロップアウトに使用します。背景色を消去（記入用紙の罫線やボックスを削除）すると文字情報のみがイメージとして保存されます。



注：カラードロップアウトは自動回転分析の前に実行されるため、カラードロップアウトは自動回転の精度に影響を及ぼす場合があります。

[ドロップアウトカラー (表面)] — 表面でドロップアウトする色（なし、赤、緑、青）を選択します。

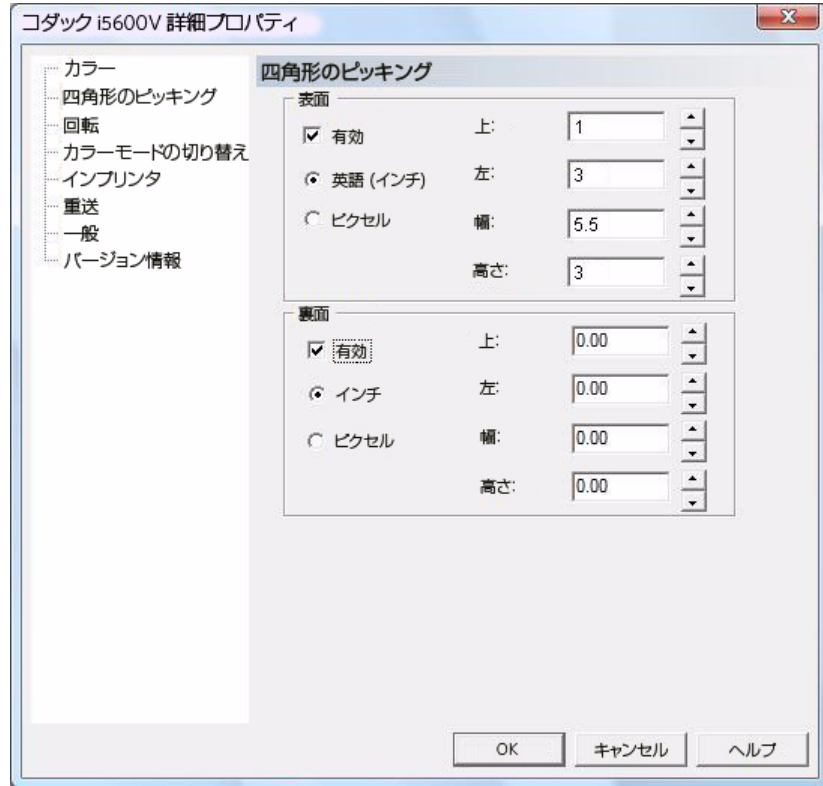
[ドロップアウトカラー (裏面)] — 裏面でドロップアウトする色（なし、赤、緑、青）を選択します。

[JPEG 圧縮] — 以下の品質オプションを選択する場合は [有効] をクリックします。

- **標準**：標準的な圧縮率ですが、妥当な品質のイメージが生成されます（最小ファイルサイズ）。
- **高**：一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
- **最高**：最低限の圧縮率で、非常に高画質のイメージを生成します（最大ファイルサイズ）。
- **カスタム**：このオプションを選択して、JPEG 圧縮率をカスタマイズします。選択すると、[YUV] と [値] の % オプションが使用できます。
 - [YUV]：JPEG 圧縮で使用されるカラー スペースの一種です。4-2-2 の選択（デフォルト）ではダウンサンプリングを使用して、4-4-4 の選択よりも小さなファイルを生成します。4-4-4 の場合は、ダウンサンプリングを行わないので（可能な限りカラーデータを維持）、ファイルサイズが大きくなります。
 - 値：大きい値は圧縮率が低く、ファイルサイズが大きくなり、小さい値は圧縮率が高く、サイズが小さくなるため、画質が低下します。

[四角形のピックアップ] 画面

[四角形のピックアップ] 画面では [上] / [左] / [幅] / [高さ] ボックスに値を入力することで原稿を部分的にスキャンすることができます。



[有効] — 表面または裏面で [四角形のピックアップ] 画面のオプションを有効にする場合はこのボックスをクリックします。

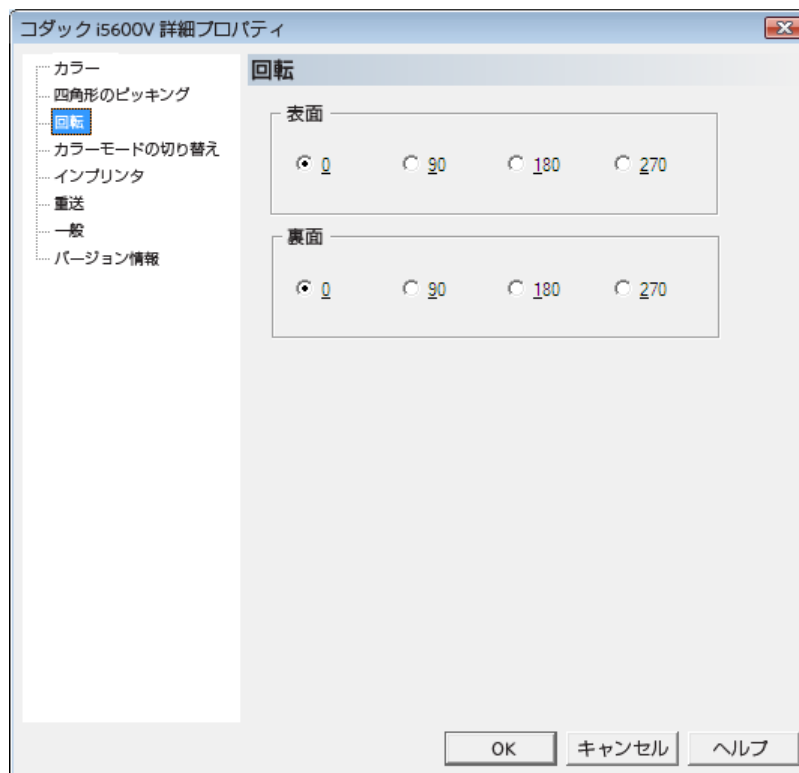
[表面 / 裏面] — オリジナルイメージの上端と左端から画像の領域を設定できます。上の設定例では、幅 5.5 インチ、高さ 3 インチの領域を上端から 1 インチ、左端から 3 インチの場所から画像を取得します。選択した画像は任意の画像フォーマットで保存されます。

注：

- [四角形のピックアップ] が無効の場合、イメージ全体が処理されます。
- [四角形のピックアップ] は固定回転または自動回転の後に適用されます。

【回転】画面

【回転】画面では以下のオプションがあります。



表面 / 裏面 — スキャン画像を **0 度、90 度、180 度、270 度** 回転できます。0 がデフォルトです。

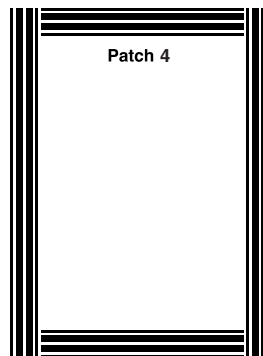
画像を指定の角度で回転したい場合は、【回転】コントロールを使用します。活字原稿場合、VRS インタラクティブ ビューアの【自動回転】コントロールを使用して文字列の向きに合わせた自動回転を適用できます。

注：

- 裏面の画像回転は表面と 180 度異なります。したがって、原稿上部を左側に向けて両面スキャンを実行した場合、文字列の向きに合わせるために表面を 90 度、裏面を 270 度に設定する必要があります。
- 画像の回転は VRS の自動回転の前に適用されます。固定回転を VRS 自動回転と併せて使用することで、原稿を横向きに給紙した場合でも（自動回転で回転できない）白紙ページとテキストページを同じ向きで出力できます。

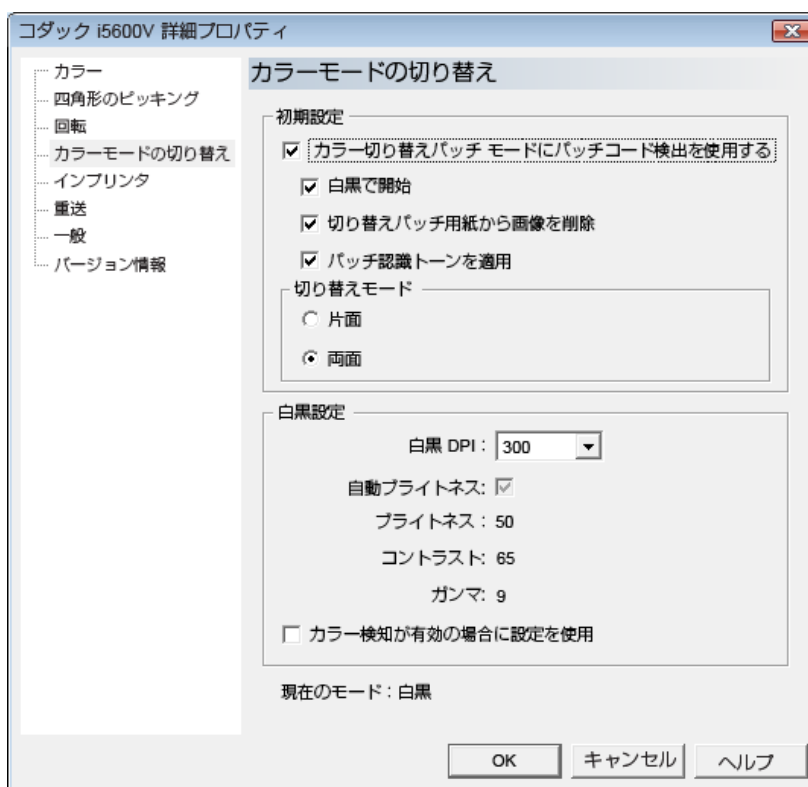
[カラーモードの切り替え] 画面

[カラーモードの切り替え]を使用するとバッチスキャン時にカラーをスキャンしたい原稿を個別に選択できます。スキャン前に特殊なパターン（パッチ4）を原稿に追加します。パッチ4はスキャナーに白黒とカラーの切り替えを指示します。パッチ4がスキャンされる毎にスキャンのモード（カラー/白黒）が切り替わります。パッチ4のイメージは通常削除され、出力イメージには含まれません。[カラーモードの切り替え]はVRSの[自動カラー検知]よりもスキャンする原稿の判別性が高いです。



印刷用サンプル PDF は同梱の CD または
www.Kodak.com/go/docimaging で入手可能です。

[カラーモードの切り替え] 画面には、以下のオプションがあります。



注：[カラーモードの切り替え]を使用する場合は、アプリケーションをカラーまたはグレースケールモードに設定します（最初のページを白黒でスキャンしたい場合は[白黒で開始]オプションを使用します）。バッチスキャンモードに設定する必要があります（[先頭ページ]または[全ページ]は選択しないでください。詳細については後述の「VRS ツールバー アイコン」を参照してください）。

初期設定

[カラーモードの切り替えにパッチコード検出を使用する] — 選択すると [カラー切り替えパッチ] モードが有効になります。

- [白黒で開始]: スキャンアプリケーションでカラー スキャンが選択されている場合でも強制的に白黒で出力されます。そのため、最初のパッチコードが検出されるとカラーに切り替わります。これによって、スキャンを白黒で開始することを指示するためにパッチの先頭にパッチコード用紙をセットする必要がなくなります。
- [切り替えパッチ用紙から画像を削除]: 白紙ページを含めて、パッチコード用紙の表面 (両面スキャンが選択された場合は裏面) の画像を削除します。このオプションを選択しないと、パッチコード用紙の画像が残ります。パッチコード用紙の画像が不要であれば、この設定を選択してください。
- [パッチ認識トーンを適用]: パッチコード用紙が処理されると音声で通知します。オペレータ コントロールパネルから通知トーンが設定できます。

切り替えモード

- [片面]: 選択すると、[カラーモードの切り替え] はパッチコードが検出された面に適用されます。
- [両面]: デフォルト設定です。選択すると、[カラーモードの切り替え] は原稿の両面に適用されます。

白黒設定

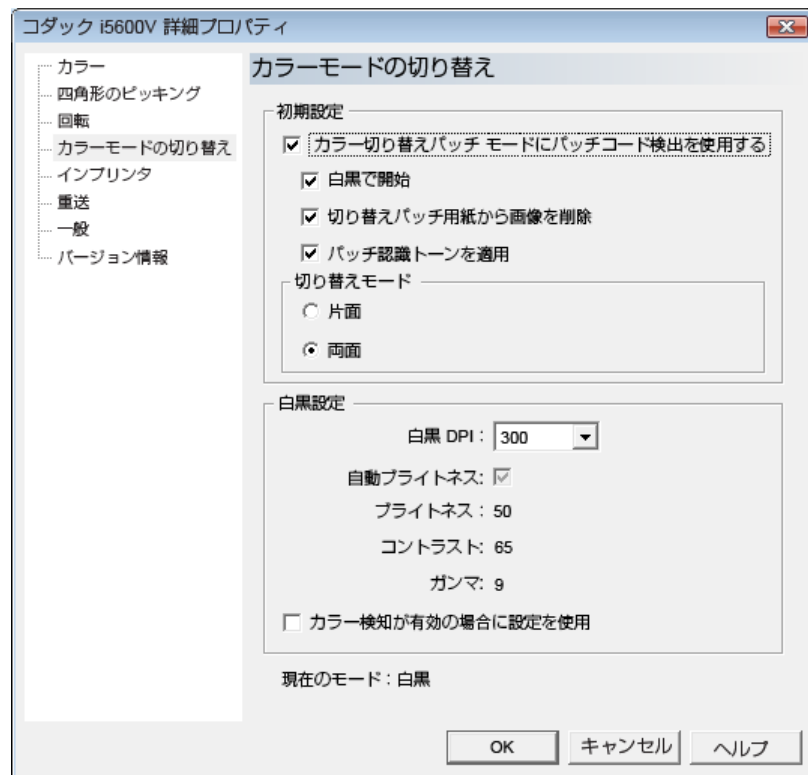
- [白黒 DPI]: 白黒原稿をスキャンする際の任意の dpi を設定します。オプションは、100、150、200、240、300、400、600 dpi に設定できます。
- サンプル原稿をスキャンすると [自動ブライトネス]、[コントラスト]、[ブライトネス]、(白黒スキャンの場合) [ガンマ] が自動的に設定されます。画質を最適化するために各値は変更できます。選択するとスキャンアプリケーションで設定された白黒、カラー、グレースケールの通常のパラメータから独立して設定が保存されます。
- [カラー検知が有効の場合に設定を使用]: 選択すると、[Kofax VRS インタラクティブ ビューア] または PixKofax の [メイン] タブで [カラー検知] オプションの選択を維持しながら白黒として検出されたすべてのページに [白黒設定] グループの値 (dpi を含めて) を適用できます。このオプションを選択しないで [カラー検知] を選択すると、スキャンアプリケーションで設定した dpi 値がカラー/グレースケールと白黒の両方に適用されてしまいます。

[現在のモード] — [カラーモードの切り替え] の現在の設定を表示します。

[カラーモードの切り替え] 設定

[カラーモードの切り替え] を設定する場合は以下の手順に従います。

1. スキャンアプリケーションを起動します。
2. スキャン設定を [白黒] に変更します。
 - [カラー] モードを [白黒] に設定します。
 - 白黒の原稿をテストページとしてスキャンします。
 - スキャン画像を確認して [Kofax VRS 画質] タブで次を行います。Kofax VRS によって各画像のブライトネスを自動的に設定したい場合は [自動ブライトネス] をクリックし、[ブライトネス & コントラスト] をクリックして [ブライトネス]、[コントラスト]、[ガンマ] の値を設定します。
3. [カラーモードの切り替え] 機能を選択します。
 - [Kofax VRS 画質] タブで [ドライバ設定] をクリックします。[詳細プロパティ] 画面が表示されます。
 - [カラーモードの切り替え] を選択します。
4. [カラーモードの切り替え] 画面で [カラーモードの切り替えにパッチコード検出を使用する] を選択します。



5. 任意の設定を行います。[白黒で開始]、[切り替えパッチ用紙から画像を削除]、[パッチ認識トーンを適用]。
6. [片面] または [両面] を選択します。

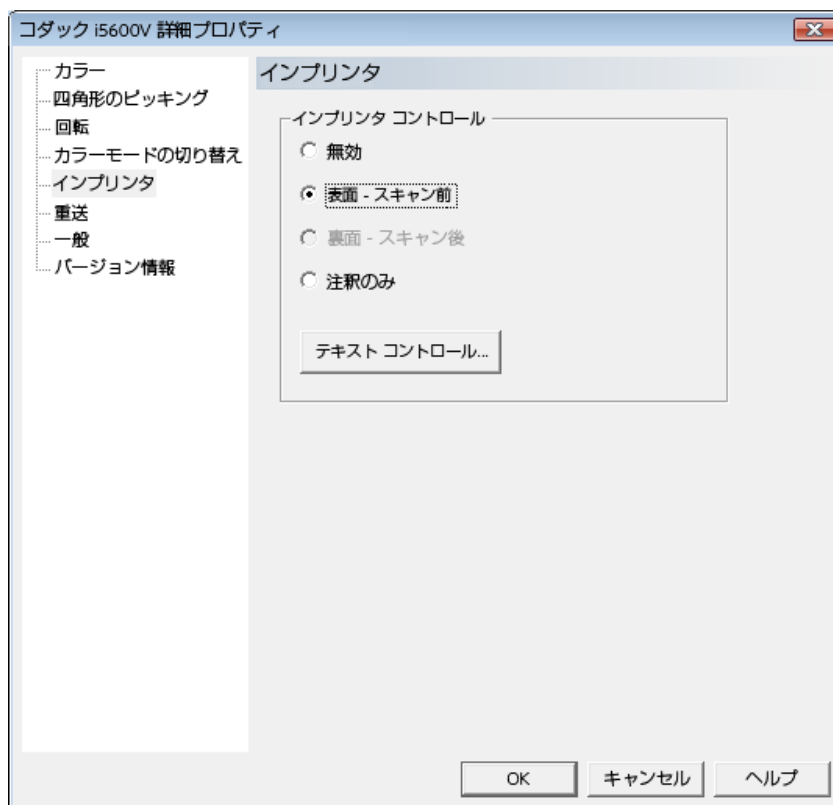
7. **[白黒設定]** グループの値は **[Kofax VRS 画質]** タブ (上記ステップ2) で選択されたものです。
 - 白黒の原稿をスキャンする際の dpi 値を選択します。デフォルト値は 300 です。
 - **[カラー検知]** を選択しながら、白黒として検出されたすべての原稿に白黒グループの値 (dpi を含めて) を適用するには **[カラー検知が有効の場合に設定を使用]** を選択します。このオプションを選択しなかった場合に **[カラー検知]** が有効だと、スキャンアプリケーションで設定した dpi 値がカラー / グレースケールと白黒の両方に適用されてしまいます。
8. **[OK]** をクリックします。
9. カラーモードを切り替えたい場所にパッチコード用紙を挿入します。白黒モードでスキャンしている場合にパッチコードが検出されると、次の原稿からカラーでスキャンされます。
10. スキャンアプリケーションで **[カラー]** モードを **[グレースケール]** または **[カラー]** に設定してスキャンを開始します。

注 :

- **[白黒で開始]** を選択した場合、最初のパッチコード用紙が検出されるまで白黒モードでスキャンされます。
- **[白黒で開始]** を選択していない場合、スキャンはグレースケール / カラーで開始され、最初のパッチコードが検出されると白黒に切り替わります。

[インプリンタ] 画面

[インプリンタ] タブには、以下のオプションがあります。



注：

- 印字やアノテーションはスキャナーのタッチスクリーンから変更できます。
- 画像アノテーションの使用には、オプションのプリンタ アクセサリは必要ありません。

[インプリンタ コントロール] — 物理的縦方向の印字と画像へのアノテーションスタンプ機能によって英数字、日付、時間、原稿カウント、カスタム メッセージを印字できます。

- **無効**：印字を無効にします。
- **表面 - スキャン前**：スキャン前にオリジナル原稿の表面に印字 / アノテーションを行うため、印字テキストはスキャン画像に含まれます。
- **裏面 - スキャン後**：コダック i5000V シリーズスキャナーは裏面への印字はサポートしません。なお、裏面のスキャン画像へのアノテーション追加は可能です。
- **注釈のみ**：スキャン画像に [テキスト コントロール] 画面で設定したテキストを印字します。テキストはスキャン原稿に印字されません。

[テキスト コントロール] — [テキスト コントロール] 画面が表示され、印字オプションを設定できます。

[テキストコントロール] 画面

[テキストコントロール]画面ではインプリンタのオプションを設定できます。

ページカウンタ

[有効] — 選択すると、[ページカウンタ]オプションが設定できます。

- [印刷設定]：カウンタ値がフィールドの桁数以下の場合、カウンタの表示形式を設定できます（以下の例はフィールドの桁数が3、カウンタ値が4の場合）。以下のオプションが選択できます。
 - [行頭スペース]：“ 4”
 - [行頭ゼロ]：“004”
 - 行頭スペース / ゼロなし：“4”
- [開始カウント]：次にスキャンする原稿のカウンタ値を設定できます。開始カウントはスキャン後に実際のカウンタに更新されます。最後に使用されたカウンタかデフォルトのカウンタが表示されます。
- [ステップ量]：ドロップダウンリストから値を選択すると、ページ毎の自動インプリンタ/アノテーションカウンタの増分値を決定します。カウンタはスキャン対象の原稿、バッチの構成方法、ユーザのニーズに基づいて設定します。0から9までの増分幅で設定できます。
- 桁：カウンタの桁数を1～9の範囲で設定できます。ただし、印字文字数が6文字しか残っていない場合は、桁数も6文字に制限されます。

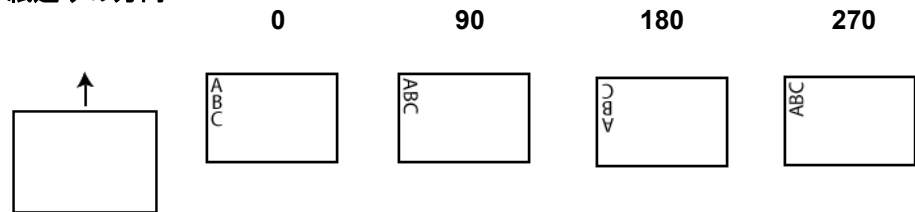
[**フォント高**] — 印字するフォントサイズを選択します。[標準]と[大]が選択可能です。

[**ボールド**] — 印字するフォントの種類を選択します。[標準]と[太字]が選択可能です。

注：[**フォント高**]と[**ボールド**]は [注釈のみ] が選択されると無効になります。

[**テキスト方向**] — 文字を縦方向（書類の先端から開始）に印字する場合、印字文字列の方向を選択できます。利用可能なオプション：0, 90, 180, 270。

紙送りの方向



[**ダイナミックコンテンツ挿入**] — ドロップダウンリストから任意のコードを選択して、印字文字列を定義できます。

コード	内容
%C1	この位置にページカウンタを挿入して、行頭スペースで印字する
%C2	この位置にページカウンタを挿入して、行頭ゼロで印字する
%C3	この位置にページカウンタを挿入する
%D1	YYYY/MM/DD
%D2	YYYYJJJ（西暦とユリウス暦）
%D3	MM/DD/YYYY
%D4	JJJ（ユリウス暦）
%D5	DD/MM/YYYY
%T1	HH:MM:SS（24 時間表示）

[印字文字列の定義] — 印字する文字列を入力します。文字列には *[ダイナミックコンテンツの挿入]* フィールドで選択したダイナミックコンテンツが含まれ、ページカウンタの印字位置を指定できます。メッセージが 1 つ設定できます。日付コードは 1 つ、時間コードは複数設定できます。日付コードは接頭辞メッセージの前後に設定してください。例えば印字文字列を以下のように設定する場合：

バッチ 1, 2011/09/20 16:53:10 0000112345

次のように入力します。

[印字文字列] フィールドに「バッチ 1」と入力後、*[ダイナミックコンテンツ挿入]* リストボックスから **%D1**、**%T1**、**%C2** を選択します。

[残りカウント] — 印字文字列に入力できる残りの文字数が表示されます。スペースを含めて最大 40 文字まで指定できます。

[印刷プレビュー] — 印字文字列のプレビューを表示します。印字文字列には複数の行を追加できるため、*[印刷プレビュー]* フィールドの右側には印字文字列の桁数が示されます。

注釈の定義

注釈の位置

- **[左端オフセット]**：用紙左端からアノテーションまでの位置を入力します。

注：アノテーションは回転後に適用されます。

- **[注釈 - 表面]**：原稿の表面にアノテーションを付けます。

- **[裏面 - 注釈]**：原稿の裏面にアノテーションを付けます。

[単位] — 使用する長さの単位を選択します。**インチ**、**ミリ**、**ピクセル**が選択できます。

印字 / 注釈の位置

- **[先端オフセット / 範囲]**：0 ～ 39 インチの範囲から値を選択し、原稿の先端から印字開始位置の距離を指定します。

注：

- 先端からのオフセットは、スキャナーのタッチスクリーンで無効にすることができます。

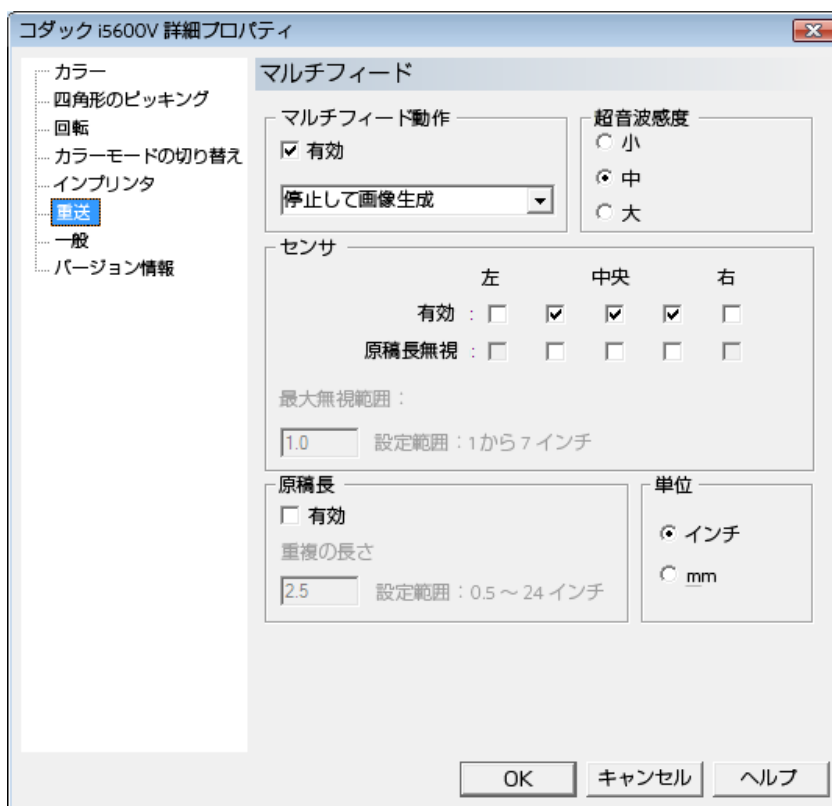
- 情報がすべて印字されていなくても、印字は原稿の後端から 6.3 mm (1/4 インチ) のところで自動的に停止します。

- 印字の横位置は、スキャナー内部のインクカートリッジの場所によって決まります。印字位置の設定の詳細については、『ユーザーズガイド』を参照してください。

- **[印字をスキップ]** や **[印刷無効]** は物理印字の場合に使用できます (スキャナーのオペレータ コントロールパネルから使用できます)。これらのオプションはイメージのアノテーションには影響しません。

〔重送〕画面

〔重送〕画面からスキャナーの重送の設定を行います。



コダック i5000V シリーズ スキャナーでは重送検知に対して複数の対応オプションが用意されています。

重送検知に対するスキャナーの対応は次の2つの設定から制御できます。[VRS Administration Console]の[イベントハンドラ]と[詳細プロパティ]画面の[重送アクション]ドロップダウンリストでのオプションの選択。

通常は[VRS Administration Console]で[自動解決]に設定し、重送の種類に応じて[詳細プロパティ]の[重送アクション]を変更します。

通常は[VRS Administration Console]のデフォルトの[自動解決]を変更する必要はありません。[詳細プロパティ]画面の設定はVRSプロファイルに保存されるため、ジョブに応じて重送アクションを設定できます。

例えば封筒が含まれるジョブの場合は、デフォルトのアクションである[停止して画像を生成]に設定すれば、重送アラームの原因が封筒か実際の重送かを確認できます。ホチキス止めされた原稿が含まれているジョブの場合は、アクションを[一時停止して用紙保持]に設定すればホチキス止めされた原稿とスキャナーの両方の損傷を防止できます。

以下では、VRS Administration Console のイベントハンドラが [自動解決] または [エラー報告] に設定されている場合の、[詳細プロパティ] の [重送アクション] の動作を説明します。

注：

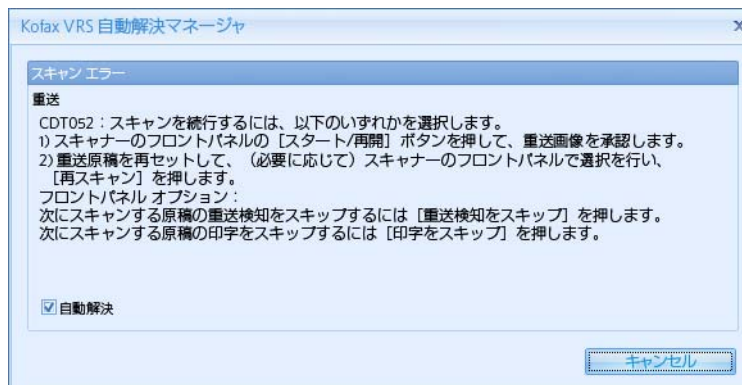
- [エラー報告] はスキャナーの高度な重送イベント 処理を制限してしまうため、通常は使用しません。
- 重送アクションは超音波または原稿の長さによる重送の検知で実行されます。

重送が検知されると必ず音声アラート通知されます。音声はスキャナーのオペレータ コントロールパネルの [設定] 画面から設定できます。メーター ログのカウントが上がり、1日あたりの重送件数がスキャナーのオペレータログに記録されます (スキャンバリデーションツールから使用)。重送アクションによってフィーダが停止されると入力エレベータが下降し、重送ページを給紙トレイに再セットすることができます。

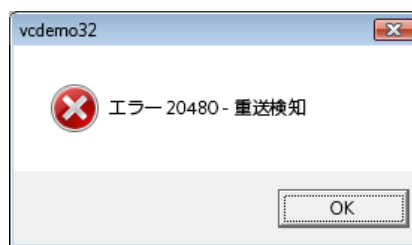
オペレータ コントロールパネルで [重送検知をスキップ] を選択すると、次の重送を無視することができます。オペレータ コントロールパネルから [重送検知 OFF] を使用することで現在のスキャンセッションで重送検知を完全にオフしたり、個別の重送センサをオフにすることができます。

[一時停止して画像生成] — スキャナーとホスト PC を行き来しないで重送イベントを処理できます。このオプションを使用すれば重送原稿の画像を PC から確認して画像を承認するか、再スキャンするのかが選択できます。これはデフォルト設定で一般的に推奨する設定です。

- **VRS Administration Console : 重送エラー - 自動解決** : 重送の原因となった原稿を出カトレイに排出します。重送の原因となった原稿の表面の画像はホスト PC の [Kofax VRS インタラクティブ ビューア] に表示され、オペレータ コントロールパネルからの重送の処理方法が示されます。重送の画像は承認しない限りスキャンアプリケーションには送られません。スキャナーは「一時停止：重送が検知されたため、スキャンが停止されました」のメッセージを表示します。印字が有効の場合は (上の) ページは印字され、次のメッセージが表示されます。



- エラーを無視してスキャンを再開するにはスキャナーの [スタート / 再開] ボタンを押してください。通常どおり画像がスキャンアプリケーションに送られてスキャンが再開します。
 - 重送原稿を再スキャンする場合は原稿を出カトレイから入力エレベータに移します。オペレータ コントロールパネルで [再スキャン] を選択します。重送原稿の画像は削除され、原稿は再スキャンされます。
注：印字が有効な場合、[再スキャン] 選択前にオペレータ コントロールパネルで [印字をスキップ] を選択すれば、ページへの二重印字を防止します。
 - キャンセルする場合はスキャナーの [停止 / 一時停止] ボタンを押すか、[重送] 画面で [キャンセル] を選択します。アプリケーションはスキャン状態を終了するため、スキャン再開にはアプリケーションから再スタートする必要があります。
- **VRS 重送例外処理：エラー報告**：ホスト PC に重送ページの画像が表示されないことと、スキャンアプリケーションがスキャンを終了する以外はスキャナー動作は同じです。ホスト PC に重送エラーメッセージが表示されます。



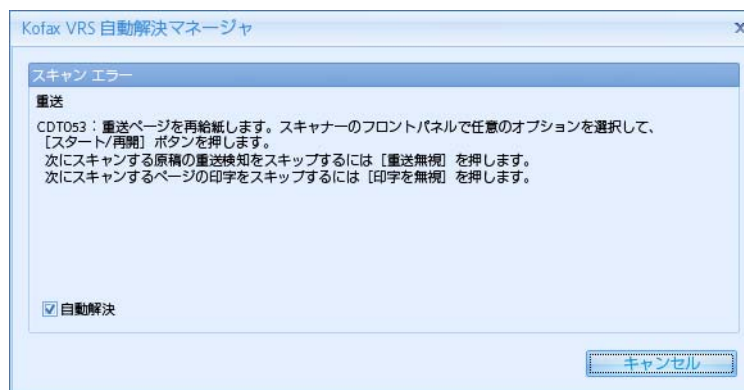
ホストアプリケーションからスキャンを再スタートする必要があります。

注：

- 重送の原因となったページがパッチコードだった場合、パッチコード用紙の画像が [VRS インタラクティブ ビューア] に表示され、カラーモードは切り替わりません。
- 重送が無視されるとページ カウンタは通常どおり上がります。重送したページが再スキャンされた場合、ページカウンタの正確性を確保するために [再スキャン] を選択すると、次のページではページ カウンタは上がりません。

スキャン停止 — ホチキス止めされた原稿を損傷から防ぎます。重送検知したページのスキャンは停止され、搬送されません。

- **VRS 重送例外処理：自動解決**：重送の原因となった原稿は出力トレイに搬送されずにフィーダに残されます。重送の原因となった原稿の画像はスキャンアプリケーションに送られません。**停止**：「**重送を検知 搬送路停止**」というメッセージオペレータコントロールパネルに表示されます。印字が有効な場合は（上の）ページは印字されずに、以下のメッセージが表示されます。

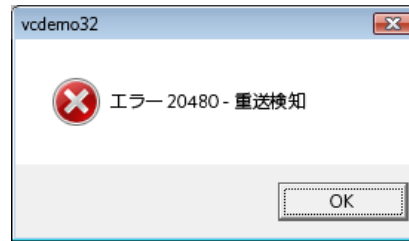


- 搬送路をクリアしてスキャンを再開するにはスキャナーカバーを開くか、オペレータコントロールパネルから**【搬送路のクリア】**を選択します。スキャンを再開前に搬送路をクリアする必要があります。スキャンを再開するにはオペレータコントロールパネルから**【スタート/再開】**を選択します。重送ページはスキャンされません。
- 重送原稿を入力エレベータにセットします。搬送路をクリアしてからスキャンを再開するには、オペレータコントロールパネルで**【スタート/再開】**を選択します。

注：スキャンする必要がある原稿が誤って重送検知した場合は、オペレータコントロールパネルで**【重送検知をスキップ】**を選択します。これにより次に給紙されるページの重送検知が無視され、原稿をスキャンできます。

- キャンセルする場合はスキャナーの**【停止/一時停止】**を押すか、**【重送】**画面で**【キャンセル】**を選択します。スキャンアプリケーションはスキャン状態を終了するため、スキャンを再開するにはホストアプリケーションから再スタートする必要があります。

- **VRS 重送例外処理：エラー報告**：ホスト PC の重送エラーメッセージ表示と、スキャンアプリケーションがスキャンを終了する以外はスキャナー動作は同じです。



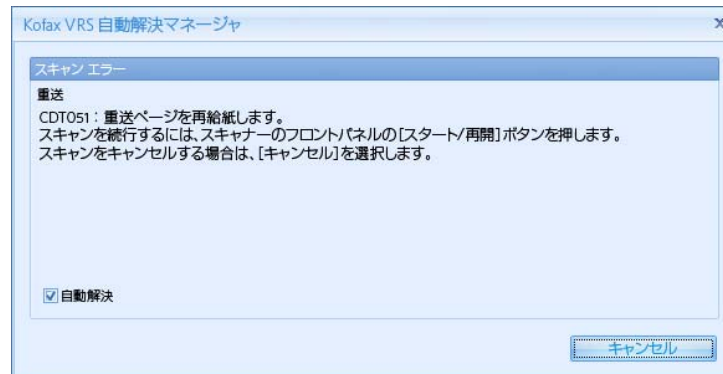
ホストアプリケーションからスキャンを再スタートする必要があります。

注：

- ページが最初のフィーダローラを通過するまで重送が検知されなかった場合（付箋などがページの下部に付ついていた場合など）、重送ページは出力トレイまで搬送され、物理的に印字されます。
- パッチコードが重送を検知した場合、カラーモードは切り替わりません。
- 重送検知された場合は、ページカウンタは上がりません。

[一時停止して用紙保持] — [スキャン停止] オプションと似ていますが、[重送無視] は使用できません。

- **VRS 重送例外処理：自動解決**：重送した原稿は出力トレイに搬送されずにフィーダに残されます。重送した原稿の画像はスキャンアプリケーションに転送されません。待機中：「重送が検知されたため、スキャンが停止されました」というメッセージオペレータコントロールパネルに表示されます。印字が有効の場合は（上の）ページは印字されずに、以下のメッセージが表示されます。



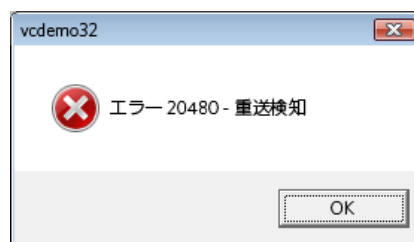
- 搬送路をクリアしてスキャンを再開するにはスキャナーカバーを開くか、オペレータコントロールパネルから**[搬送路のクリア]**を選択します。スキャン再開する前に搬送路をクリアする必要があります。スキャンを再開するにはオペレータコントロールパネルで**[スタート/再開]**を選択します。重送ページはスキャンされません。

- 再スキャン前に搬送路をクリアし、重送原稿を入力エレベータにセットして、オペレータコントロールパネルで[スタート/再開]を選択します。

注：[重送検知をスキップ] はスキャナーが待機状態の場合は使用できません。

- キャンセルする場合はスキャナーの[停止/一時停止] ボタンを押すか、[重送] 画面で[キャンセル] を選択します。スキャンアプリケーションはスキャン状態を終了するため、スキャンを再開するにはホストアプリケーションから再スタートする必要があります。

- **VRS 重送例外処理：エラー報告**：ホスト PC の重送エラーメッセージ表示と、スキャンアプリケーションがスキャンを終了する以外はスキャナー動作は同じです。



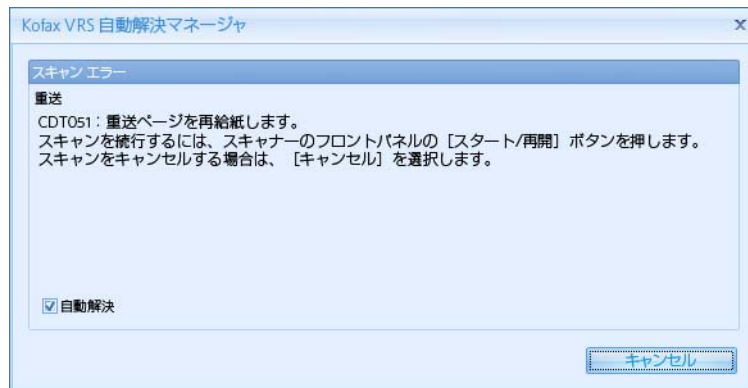
ホストアプリケーションからスキャンを再スタートする必要があります。

注：

- ページが最初のフィーダローラを通過するまで重送検知されなかった場合（付箋などがページの下部に付ついていた場合など）、重送ページは出力トレイまで搬送され、物理的に印字されます。
- パッチコード用紙が重送を検知した場合、カラーモードは切り替わりません。
- 重送検知された場合は、ページカウンタは上がりません。

【停止して排紙】 — 重送検知した原稿の画像を必ず破棄したい場合に選択します。

- **VRS 重送例外処理：自動解決**：重送した原稿を出カトレイに排出します。重送した原稿の画像はスキャン アプリケーションに送られません。**待機中：重送を検知 搬送路停止**というメッセージオペレータ コントロールパネルに表示されます。印字が有効の場合は（上の）ページは印字され、以下のメッセージが表示されます。



- スキャンを再開するにはオペレータ コントロールパネルで **【スタート/再開】** を選択します。重送ページはスキャンされません。
 - 重送原稿を再スキャンする前に搬送路をクリアし、原稿を入力エレベータにセットして、オペレータ コントロールパネルで **【スタート/再開】** を選択します。
 - キャンセルする場合はオペレータ コントロールパネルの **【停止/一時停止】** を選択するか、**【重送】** 画面で **【キャンセル】** を選択します。スキャンアプリケーションはスキャン状態を終了するため、スキャンを再開するにはホストアプリケーションから再スタートする必要があります。
- **VRS 重送例外処理：エラー報告**：ホスト PC の重送エラーメッセージ表示と、スキャン アプリケーションがスキャンを終了する以外はスキャナー動作は同じです。ホストアプリケーションからスキャンを再スタートする必要があります。

注：

- パッチコードで重送が検知された場合、カラーモードは切り替わりません。
- 重送検知された場合は、ページ カウンタは上がりません。

[通知して続行] — 重送があった場合、自動的にスキヤンを停止せずに重送検知で通知のみ行いたい場合に選択します。

- **VRS 重送例外処理** : [自動解決] または [エラー報告] : スキャナーは停止せずにスキヤンを続行します。重送があった場合は、音声アラートとオペレータ コントロールパネルにメッセージ (*UDDS 重送を検知しました*) が表示されるだけです。

注 :

- パッチコード用紙で重送が検知された場合でも、カラーモードは切り替わりません。
- ページ カウンタは通常どおり上がります。

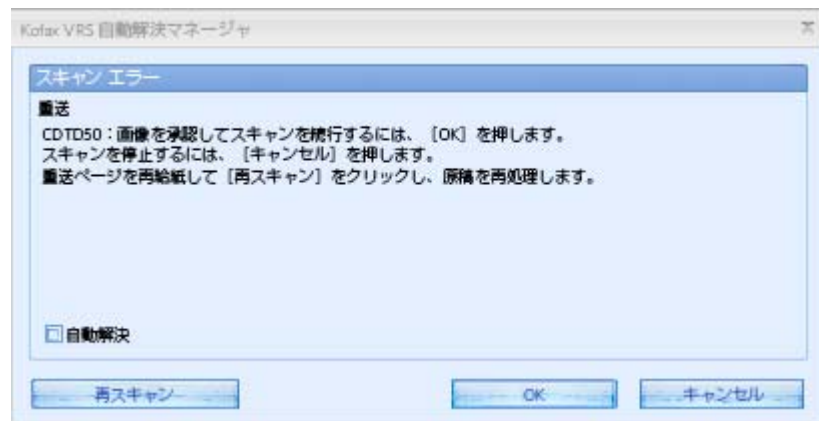
VRS Administration Console 重送エラー：介入

[介入] を選択した場合、[スキャナーの詳細プロパティ] の重送アクション設定は設定値に置き換えられます。[介入] モードは [停止して画像生成] オプションに似ています。オペレータ コントロールパネルではなくホスト PC から [承認] または [再スキャン] を選択するところが異なります。

このモードを使用すると、i5000V シリーズ スキャナーで Fujitsu fi-5900/fi-5950/fi-6800 または Canon DRX10C スキャナーのようなインタラクティブな重送処理を行うことができます。

注：[VRS Administration Console] の設定は共通なので VRS プロファイルには保存されません。

- 重送の原因となった原稿を出力トレイに排出します。重送の原因となった原稿の表面の画像はホスト PC の [VRS インタラクティブ ビューア] に表示され、重送の処理方法が示されます。重送画像は選択しない限りスキャン アプリケーションには送られません。待機中：「重送を検知 搬送路停止」というメッセージオペレータ コントロールパネルに表示されます。印字が有効の場合は（上の）ページに印字されます。以下のメッセージがホストに表示されます。



- 重送エラーを無視してスキャンを続行するにはホスト PC の [重送] 画面で [OK] をクリックします。インタラクティブ ビューアに表示された画像はホストアプリケーションに送られて、通常どおりにスキャンを再開します。
- 重送原稿を再スキャンするには、出力トレイから重送原稿を取り除いて入力エレベータにセットして、ホスト PC で [再スキャン] を選択します。インタラクティブ ビューアに表示された重送ページの画像は破棄されて、ページは再スキャンされます。

注：[重送検知をスキップ] はスキャナーが待機状態の場合は使用できません。

- キャンセルするにはホスト PC の [重送] 画面で [キャンセル] を選択します。スキャン アプリケーションはスキャン状態を終了します。ホストアプリケーションからスキャンを再スタートする必要があります。

注：

- パッチコードで重送が検知された場合、パッチコード画像が [VRS インタラクティブ ビューア] に表示され、カラーモードは切り替わりません。
- 重送ページはすべて [ページカウンタ] が上がります。重送ページが再スキャンされると、ページカウンタは同一ページで 2 枚分上がります。

超音波感度 — 複数の原稿が重なった状態で送られたかどうかを検知する度合いを指定します。重送は原稿の間の空気層と原稿の厚さを検知することで検知されます。そのため、厚さが異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を検知します。

- **低**：感度が低い設定で、ラベルが貼られた原稿、紙質の悪い原稿、シワがある原稿を重送として認識する可能性が低くなります。
- **中**：厚さが異なる原稿や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、ほとんどのラベルは重送とは認識されません。
- **高**：感度が高い設定で重送を検出します。この設定は、すべての原稿が 75.2 g/m^2 のポンド紙である場合など、厚さが均一な原稿をスキャンする場合に適しています。

注：設定の内容に関係なく、付箋は重送原稿として検知されます。

センサー — 5ヶ所のセンサーが搬送路の幅をカバーします。重送を正しく検知するためには原稿が各センサーの下を通過しなければなりません。

- **有効**：左、中央、右 5ヶ所から有効にするセンサーを選択できます。たとえば、原稿の左側にメモが「貼付」されている場合、左のセンサーを無効にできます。
- **原稿長無視**：重送センサーをオンにしたまま、一定の範囲において重送を無視したい場合（3 インチの付箋がある場合など）に [最大無視範囲] フィールドにその値を入力できます。
- **最大無視範囲**：ここで指定した [無視範囲] の長さは重送とは判断されません。このオプションは [原稿長無視] のセンサーが 1 つ以上選択された場合に使用できます。[最大無視範囲] の値は選択された [原稿長無視] ごとに適用されます。1 ～ 7 インチの範囲で指定できます。

原稿長 — ジョブ設定で原稿の最大の長さを指定できます。スキャナーがこの値より長い原稿を検知した場合、重送が発生したと判定します。

- **有効**：選択すると長さによる重送検知になり、**[重複の長さ]** フィールドに値を入力できます。
- **重複の長さ**：重送と判断する長さを入力します。すべての超音波センサが無効でも長さを基準にした重送検知は有効にできます。長さ基準の重送検知は最長 24 インチです。40 インチ以上に設定することはできません。

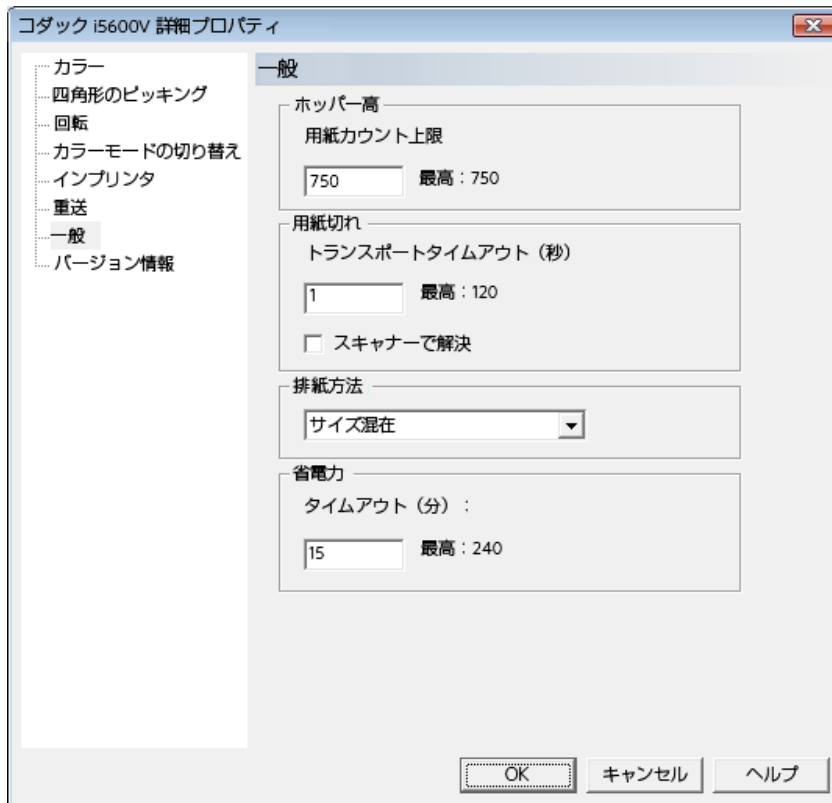
注：

- 長さ基準の重送検知は超音波検知と併用も、**[原稿長のみ]** モードの単独使用もできます。**[原稿長のみ]** モードを有効にする場合は、5つの超音波センサをすべて無効にする必要があります。
- VRS は自動的に用紙サイズに対して 0.5 インチ追加するため、用紙サイズから 2 インチ以上の原稿に対して重送検知したい場合は、長さを 1.5 インチに設定します。
- 基準の原稿長は選択した用紙サイズと方向から決定されます。US のレターサイズは縦が 11 インチで、横が 8.5 インチです。例えば、A5 (8.3 x 5.8 インチ) の用紙サイズを横向きモードで選択して、重複の長さを 1 インチに設定した場合、7.3 インチ (5.8 + 0.5 + 1.0) 以上のページで重送と判断されます。

[単位] — 原稿長で使用する長さの単位を選択します。インチまたはミリが選択できます。

【一般】画面

【一般】画面からはバッチ間の間隔を減らしたり、省電力モードの際の給紙方法を設定することで生産性を向上できます。



【ホッパー高】 — スキャンする原稿の枚数に合わせて入力エレベータの高さを指定します。用紙が無くなると、入力エレベータは指定の高さまで下降します。最小の 25 枚の場合も入力エレベータは下降するので、用紙を追加できます。最大枚数は 750 枚です。

- **25 枚 (以下)** : 入力エレベータは一番高い位置にあります。このオプションは、入力エレベータから 25 枚以内の用紙をスキャンする場合に最適です。
- **100 枚** : このオプションは、入力エレベータから 25 ~ 100 枚の用紙をスキャンする場合に最適です。
- **250 枚** : 入力エレベータから 100 ~ 250 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **500 枚** : 入力エレベータから 250 ~ 500 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **750 枚** : 入力エレベータから 500 ~ 750 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。

注 : スキャン アプリケーションで給紙モードが **【手差し】** に設定されている場合、ホッパー高は 25 枚の位置にセットされます。

[用紙切れ] — 最後の1枚が入力エレベータから給紙された際のスキヤナーの動作を指定します。

- **[トランスポートタイムアウト (秒)]**: **[用紙切れ]** 状態を検知後にスキヤナーが稼働を続ける秒数。この時間内に原稿を追加すればスキャンは自動的に再開します。入力エレベータに追加の原稿をセットする前に指定した時間が経過した場合、トランスポートはタイムアウトし、**[スキヤナーで解決]** での設定に応じてスキヤナーのモードが移行します。
- **[スキヤナーで解決]**: 有効にすると、**[用紙切れ]** 状態の際にスキヤナーは **[一時停止]** モードではなくて **[停止]** モードに設定されます。このオプションを使用すると、入力エレベータに原稿を追加した後にオペレータ コントロールパネルで **[スタート/再開]** を押せば、すぐにスキヤナーが稼働します。**[スキヤナーで解決]** を無効にすると、**[用紙切れ]** 状態になるとスキヤナーは **[停止 (待機)]** モードに移行するため、アプリケーションからスキャンを再開する必要があります。

注: **[スキヤナーで解決]** が有効にされていない場合、[VRS Administration Console] の **[用紙切れ]** エラーの設定に応じて、入力エレベータに用紙を追加すると自動的にスキヤナーが起動します。

[排紙方法] — スキヤナーの原稿の排紙方法を選択できます。スキヤナーに給紙される方法、スキヤナー内の搬送速度、出力トレイに排紙される方法を指定します。

- **標準**: 追加処理はありません。原稿のサイズが全て同じ場合に最適です。
 - 最高の処理速度
 - 排紙コントロール無効の状態
 - 原稿間のギャップが小さい
- **[サイズ混在]**: サイズが混在する原稿を出力トレイ上に順番に積載されるように制御します。大抵のサイズ混在の原稿セットに対応しています。
 - 処理速度が若干低下
 - 排紙コントロール有効状態
 - 原稿間のギャップが小さい
- **[サイズ混在: ベスト]**: サイズの差が大きい混在の原稿セットの場合、出力トレイ上に順番に積載されるように制御します。
 - 処理能力が若干低下
 - 排紙コントロール有効状態
 - 原稿間のギャップが大きい
- **[薄紙 / 複雑な用紙]**: 出力トレイに排紙される際に特別な配慮が必要な原稿の場合。
 - 処理速度が大幅に低下
 - 排紙コントロール無効状態
 - 原稿間のギャップが小さい
 - 搬送速度が 1/4 に低下

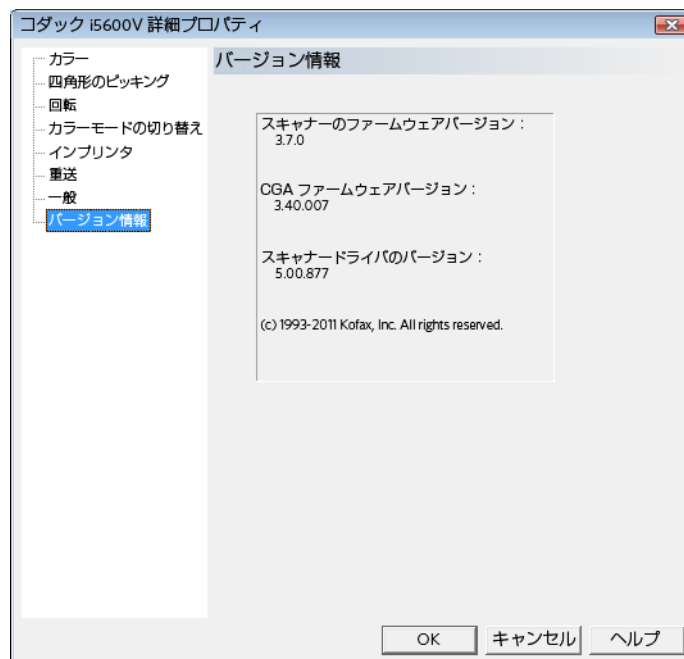
- **[厚紙または封筒]** : カードストックよりも厚い原稿用 (0.25 mm)。
 - 処理能力が大幅に低下
 - 排紙コントロール有効状態
 - 原稿間のギャップが小さい
 - 搬送速度が 1/4 に低下
- **薄紙** : 20 ポンド紙よりも薄い原稿用。(薄紙など)。
 - 処理能力が大幅に低下
 - 排紙コントロール有効状態
 - 原稿間のギャップが大きい
 - 搬送速度が 1/4 に低下

省電力

- **[タイムアウト (分)]** : スキャナー未使用時に節電モードに移行するまでの時間 (分) を設定できます。デフォルトの設定は 15 分で、240 分まで設定できます。

[バージョン情報] 画面

[バージョン情報] 画面はスキャナーのファームウェアバージョン、CGA ファームウェアバージョン、スキャナー ドライバのバージョン (VRS バージョン)、著作権情報を表示します。



VRS Administration Console

[VRS Administration Console] (管理コンソール) では VRS のエラーや警告への対応、ライセンスの有効 / 無効、自動プロファイルに関連する設定、スキャナーの監視、VRS で画像を処理するためのスキャナーまたはファイル インポート元の設定などの一般的な設定ができます。

VRS Administration Console は以下の手順で開きます。

- [PixKofax VRS] タブで **[VRS 管理]** ボタンを選択する。
- システムトレイの VRS アイコンを右クリックして、**[管理コンソール]** を選択する。
- **[スタート] > [Kofax VRS Administration Console]** をクリックする。

ユーザー設定の設定

[Kofax VRS Administration Console] で **[ユーザー設定]** を選択して共有プロファイル アップデート、マルチコア処理、表示言語、管理コンソールのログファイルのパスなどの一般設定を行うことができます。



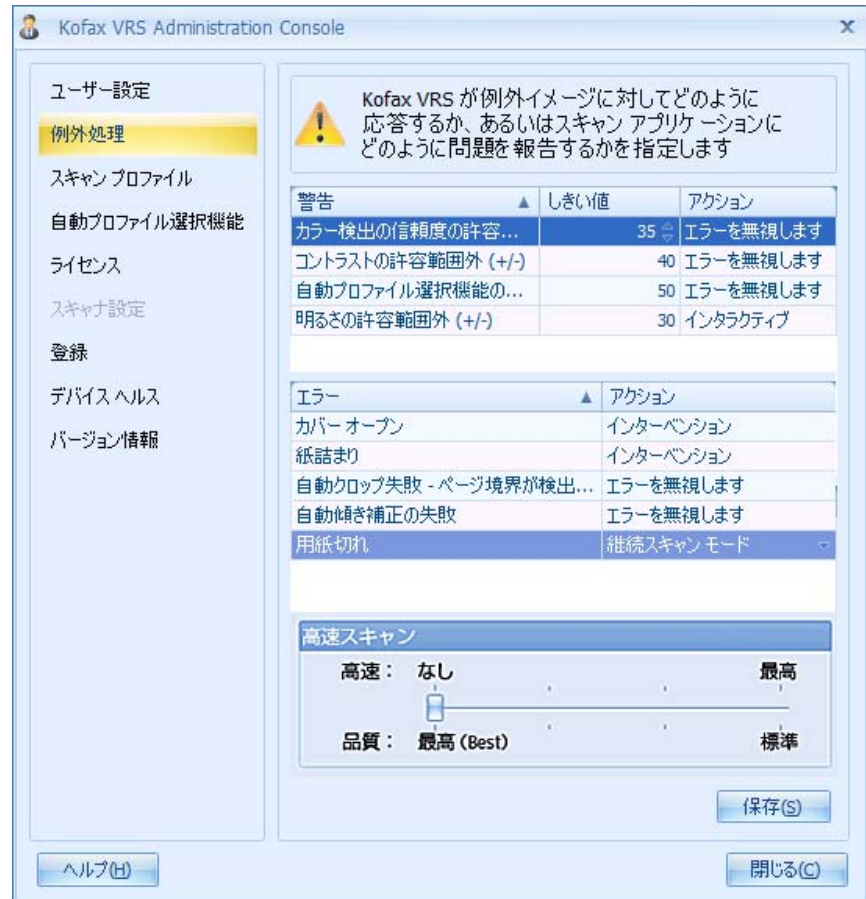
注 :

- マルチコア処理または Kofax VRS の言語設定の変更を適用する場合は Kofax VRS を再起動する必要があります。
- [自動プロファイル] および [デバイス状態] はデモモードでは使用できません。使用する場合は VRS 5 を VRS Elite にアップグレードしてください。

1. [VRS Administration Console] 画面で **[ユーザー設定]** を選択します。
2. [ユーザー設定] 画面で、アップデートしたい項目を選択します。
 - **Kofax VRS Elite デモモード** — 「DEMO」とスタンプされた画像に対して Kofax VRS Elite の機能をデモモードで使用できます。
 - **[共有プロファイル]** — Kofax VRS Elite のみで使用できます。
 - **[マルチコア処理]** — マルチコア処理は全体のパフォーマンスを向上できません（コンピュータのハードウェア、[VRS インタラクティブビューア] での設定、スキャンアプリケーションの設定などにも左右されます）。複数の CPU コアで処理する VRS イメージ処理の設定を以下から指定します。
 - **自動** : i5000V シリーズスキャナーの Kofax VRS 製品ライセンスが必要ですが、**[自動]** の動作は **[オン]** と同様です。
 - **[オン]** : ライセンスに関係なくマルチコア処理を実行します。Kofax VRS 生産ライセンスが無い場合、画像には「DEMO」が透かしスタンプされます。
 - **[オフ]** : ライセンスに関係なくマルチコア処理は実行しません。診断を行う場合などに使用します。
 - **[Kofax VRS 言語]** — Kofax VRS ユーザーインターフェイスやオンラインヘルプを表示する言語を指定します。デフォルトでは、Kofax VRS のインストーラは Windows OS の言語に合わされません。**[Windows 表示言語]** を選択すると、Kofax VRS 言語は OS の言語設定が適用されます。**[Windows 表示言語]** が Kofax VRS でサポートされていない場合は英語に設定されます。
 - **[ログファイル]** — 管理コンソールのログファイルの保存先をリスト表示します。他の保存先を指定する場合は **[参照]** をクリックします。ログファイルには管理コンソールの操作履歴がタイムスタンプされたステータスやエラーメッセージによって記録されます。ログファイルは問題の原因の特定に有効です。

例外処理

[例外処理] 画面では、特定の画像やスキャナーのエラー状態に対する警告や VRS の対応を設定できます。

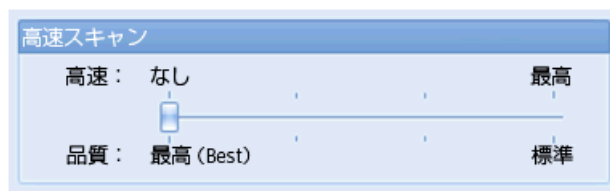


[警告] — 画質に関連するエラー。それぞれの警告に対して、[しきい値] と [アクション] を指定します。[しきい値] 設定では、Kofax VRS が警告を出すためのエラーの限度を設定します。[アクション] 設定では、Kofax VRS の警告に対する対応を設定します。

[エラー状態] — 自動クロッピング、自動傾き修正、機器障害、用紙搬送などのエラー状態を示します。**[アクション]** 設定では、Kofax VRSのエラーや警告への対応を設定します。設定できるアクションについては下の表を参照してください。

アクション	説明
[エラー無視]	エラーは報告されず、解決のアクションも実行しません。画像は「現状のまま」承認されてスキャンアプリケーションに送られ、スキャンは続行します。
[エラー報告]	エラーを通知しますが、画像はスキャンアプリケーションには送られません。スキャン処理が停止します。
介入	[自動解決マネージャ] が [手動] モードで起動し、ケーブルの緩み、紙詰まり、用紙切れ状態などのスキャナーや用紙搬送エラーを手動で解決できます。処理を再開するには、スキャナーを手動でスタートする必要があります。
自動解決	[自動解決マネージャ] を [自動] モードで起動します。ケーブルの緩み、紙詰まり、用紙切れ状態などのスキャナーや用紙搬送エラーを解決すると、スキャナーは自動的に処理を再開します。
インタラクティブ	スキャンを停止して [VRS インタラクティブビューア] にエラー画像を表示し、画質を調整できます。

[高速スキャン] — 選択すると、**[高速スキャン]** ダイアログボックスが表示されます。



高速スキャンでは、低い解像度で内部スキャンを行い、出力用に画像を高解像度にデジタル処理することで高解像度の画像をより速い処理速度で出力できます。

i5000V シリーズスキャナーでは、高速スキャンは 600 dpi の解像度のみに対応しています。**[なし / ベスト]** 以外の設定での 600 dpi の高速スキャンはスキャナーの処理能力を大幅に向上します。画像の解像力はわずかに低下します。

保存 — 変更内容を保存します。

ライセンス

[ライセンス] 画面から、Kofax VRS のスタンドアロン インストールのライセンスの有効 / 無効が設定できます。

注 : Kofax VRS Elite にアップデートした場合のみ使用します (VRS OEM 5 では不要)。

The screenshot shows the 'Kofax VRS Administration Console' window. The left sidebar contains a menu with the following items: ユーザー設定, 例外処理, スキャン プロファイル, 自動プロファイル選択機能, **ライセンス** (highlighted), スキャナ設定, 登録, デバイスヘルス, and バージョン情報. The main content area is titled 'Kofax VRS ライセンスを管理します' and contains several sections: 'ユーザー ID' with fields for 名前(N): EKAdmin, 会社名(O):, and Eメール(E):; '製品 ID' with fields for VRS バージョン: 5.00.602 SP1, スキャナ: Kodak i1200, and マシン ID: CC5F180A-5DFA-2174-1F09-6BA86A54F405; and 'ライセンス情報' with fields for パート番号(U):, シリアル番号(S):, and 製品コード(P):. At the bottom of the main area are three buttons: アクティベーション(A), アクティベーション解除(D), and 手動(M)... A 'ヘルプ(H)' button is at the bottom left and a '閉じる(C)' button is at the bottom right.

ライセンスを有効にしたら、既存のライセンスをアップデートまたは無効にできます。ソフトウェアをコンピュータから削除すると、有効なライセンスも削除されます。

ライセンスを有効にするにはインターネット接続が必要です。インターネット接続がないコンピュータに VRS がインストールされた場合は、他のコンピュータを使用してライセンスを有効にしてからライセンスコードを取得してください。

注 : Kofax VRS をクライアント / サーバ環境で使用している場合、ライセンスの有効 / 無効は [Kofax ライセンス ユーティリティ] から設定します。この場合は、[Administration Console] の [ライセンス] 画面は使用しません。クライアント / サーバインストールを完了したら、Kofax VRS プログラム フォルダから [Kofax ライセンス ユーティリティ] を起動します。

自動プロファイル

[自動プロファイル] を使用するには VRS を Kofax VRS Elite にアップグレードする必要があります。この機能の詳細については Kofax VRS の Web サイトを参照してください。

デバイス状態

[デバイス状態] を使用するには VRS を Kofax VRS Elite にアップグレードする必要があります。この機能の詳細については Kofax VRS の Web サイトを参照してください。

スキャナー設定

[スキャナー設定] 画面から、スキャナーの設定や Kofax VRS の画像処理に使用するファイルインポート元を設定します。



スキャンセッション中に適切なドライバを使用するためにスキャンアプリケーションからスキャンまたはファイルのインポート元を選択します。

選択しているスキャナーとスキャンソースは [スキャナー設定] 画面の下部に表示されます。

注： i5000V シリーズスキャナーのデフォルトのソースは通常は「Kodaki5XXXV with VRS with AIPE」です。

[**スキャナー リスト**] — Kofax VRS やスキャン アプリケーションで使用できるスキャナーやファイルのインポート元がリスト表示されます。スキャナーは Kofax VRS によって認証されているか、ドライバがコンピュータにインストールされているとリスト表示されます。スキャナー リストはメーカーとスキャナーのモデルに応じて分類され、アルファベット順で表示されます。スキャナー リストの表記規則：

- **Kofax VRS アイコン**：Kofax VRS に認証されているスキャナー。
- **一般スキャナー アイコン**：Kofax VRS が認証していないスキャナー（別称：「互換」スキャナー）。
- **赤色の×**：ドライバがインストールされていないスキャナー。
- **チェックマーク**：選択しているデフォルトのスキャナー。
- **ディスク**：ファイルのインポート元。

リスト上のスキャナー名を選択するとスキャナーがサポートするドライバの種類 (ISIS、TWAIN、Kofax SCSI) を示すツールチップが表示されます。

[**デフォルトに設定**] — 選択している項目をデフォルトのスキャナーとして設定します。選択したスキャナーが認証されているか Kofax VRS スキャナーと互換性があれば、適切なソースが自動的に作成されて設定されます。選択した項目がファイルのインポート元だった場合、デフォルトのソース「My Kofax File Import with AIPE」が作成されます。また、デフォルトの Kofax VRS 設定が設定され、選択したスキャナーのデフォルトプロファイルに保存されます。

[**ソースを設定**] — [ソースを設定] ウィンドウが開き、選択しているスキャナーのソースを作成、設定、表示できます。

[**デフォルトを復元**] — デフォルトのスキャナー設定を復元して、デフォルトスキャナーを初期化します。[**デフォルトを復元**] を選択する前に、指定したスキャナーの設定がすでに存在しないか確認します。

[**スキャナー リストのフィルタ**] — スキャナー リストの項目をフィルタします。目的に合わせて複数のフィルタ オプションが使用できます。

- [**Kofax VRS 動作保障**]：Kofax VRS が認証しているスキャナーのみ表示します。認証されていない場合でもコンピュータにドライバがインストールされているスキャナーも表示します。
- [**設定されているソース**]：ソースが設定されたスキャナーのみリスト表示します。
- **メーカー**：以下のオプションからいずれかを選択します。
 - **すべて**：コンピュータにドライバがインストールされているスキャナーのすべてのメーカーがリスト表示されます。
 - **< [メーカー名] >**：指定したメーカーのスキャナーのみリスト表示されます。

[**更新**] — セッション中に変更した設定（ドライバの追加や削除など）を反映するためにスキャナーのリストを更新します。

VRS ツールバー アイコン

VRS ソースがアプリケーションで選択されると、デスクトップのツールバーにアイコンが表示されます。アイコンの表示は VRS が稼動中で、以下が可能であることを示します。

- VRS インタラクティブ ビューアを開く
- 現在アクティブな VRS プロファイルのクイック選択
- VRS 動作モードの選択（[調整画面]、以下参照）
- 自動解決オプションを無効にする

1. VRS Administration Console を開きます。VRS ソースが起動するとメッセージが表示され、VRS アイコンがデスクトップのツールバーに表示されます。



2. アイコンを右クリックすると以下のオプションが表示されます。



- [プレビュー] — VRS インタラクティブ ビューアが起動し、VRS の設定を変更したり、[スキャナーの詳細プロパティ] 画面を開くことができます。
- [スキャン プロファイル] — 選択できるプロファイルがリスト表示されます。
- [調整画面] — VRS の動作モードを設定できます。Kofax VRS はスキャン アプリケーションの使用中に通常バックグラウンドで稼動します。デフォルトでは、Kofax VRS インタラクティブ ビューアはスキャン中にエラー画像が検知された場合のみ表示されます。この動作モードは [調整画面：警告時] と呼ばれます。必要に応じて他の動作モードを選択して、画質の確認や調整のために [Kofax VRS インタラクティブ ビューア] を開く条件を変更します。選択項目は [最初のページ]、[すべてのページ]、[警告時]、[無効] です。動作モードは [Kofax VRS インタラクティブ ビューア] のタイトル バーとリボン下のメッセージ バーに示されます。

Kofax VRS の動作モードの概要を以下に示します。

動作モード	説明
プレビュー	<p>Kofax VRS インタラクティブ ビューアで一番最後にスキャンした画像のプレビューを開き、スキャン前に画質設定を調整できます。プレビューイメージは調整値に合わせて更新され、設定の変更は現在の Kofax VRS セッションに適用されます。</p> <p>プレビューイメージから画質の調整を確認することができます。調整処理されたイメージは [OK] をクリックすると破棄されます。</p>
調整画面：最初のページ	<p>バッチの先頭ページのスキャン時に [Kofax VRS インタラクティブ ビューア] が表示される以外は [プレビュー] モードと同じです。先頭ページは調整に合わせて更新されます。画像は保存され、変更された設定は現在の Kofax VRS セッションに適用されます。先頭ページのスキャンが完了すると、モードが [調整画面：警告時] に変更されます。</p>
調整画面：すべてのページ	<p>各ページのスキャン後（両面スキャンの場合は原稿の両面スキャン後）に [Kofax VRS インタラクティブ ビューア] が表示されます。個別に調整を必要とする小さなバッチをスキャンする場合に使用します。設定を変更して [OK] をクリックするごとに画像が保存され、設定は破棄されます。</p> <p>Kofax VRS は様々な種類の原稿を調整なしで処理できるため、この設定は通常は使用しません。</p>
調整画面：警告時	<p>スキャン処理中に画質エラーが検知された場合のみ、[Kofax VRS インタラクティブ ビューア] が表示されます。スキャン プロファイルを更新するか、[画質] タブの設定を変更してエラー画像を補正します。設定を変更して [OK] をクリックするごとに画像が保存され、設定は破棄されます。</p> <p>[Administration Console] の [例外処理] パネルを使用して、[調整画面：警告時] の有効時に [Kofax VRS インタラクティブ ビューア] で表示する警告やエラー条件を設定します。この動作モードがインストール時のデフォルト設定です。</p>
調整画面：無効	<p>エラー状態が発生しても [Kofax VRS インタラクティブ ビューア] は表示されません。エラーはスキャン アプリケーションに送られます。</p>

- **[自動解決]** — [VRS Administration Console] の [エラー イベント] 管理で設定したオプションを無効にします。このオプションが選択されていない場合、すべての [エラー イベント] は「エラー報告」に置き換えられます。

注：この設定は意図せずに無効にされる場合があります。[重送] 管理または [用紙切れ] の [自動解決] が機能しない場合は、このオプションが不注意で無効にされている可能性があります。

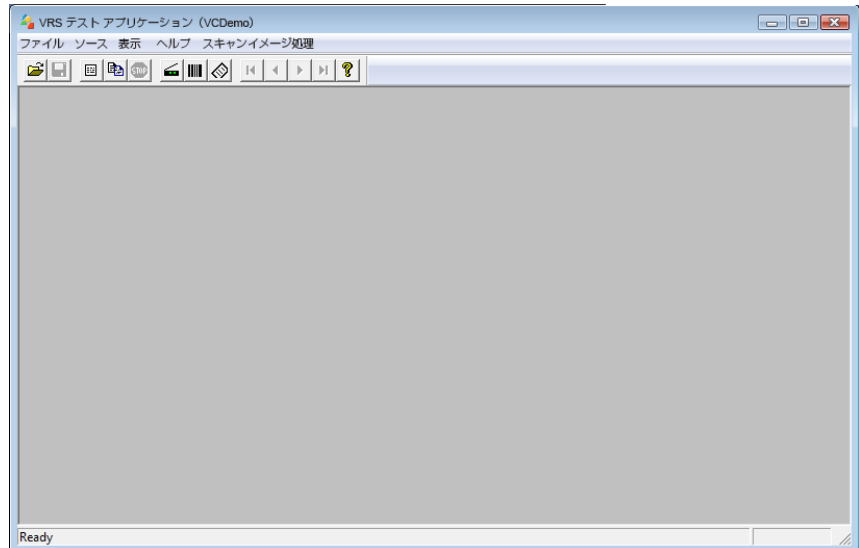
- **[管理コンソール]** — [VRS Administration Console] を起動します。


[画像コントロール (VC Demo)]

VC Demo は VRS に含まれるサンプルの画像調整アプリケーションです。VC Demo は業務用スキャン アプリケーションではありませんが、スキャン ページ数の制限がなく、コダック i5000V シリーズスキャナーのすべての機能が使用できます。VRS インストール時に VCDemo のショートカットは [スタート] メニューに作成されません。必要に応じてデスクトップにショートカットを作成してください。

VCDemo を起動する場合は Windows エクスプローラを使用します。

1. C:\Program Files\Kofax\ImgCtls\bin\VCDEMO.exe を開きます。
2. [ソース] > [スキャナー] をクリックして、[Kodak i5000V with VRS with AIPE] を選択します。



3. [ソース] > [プロパティ] を選択して (またはツールバーの  アイコンをクリックして) スキャナー セットアップのコントロールを開きます。



注：

- VCDemo を使用して書類を横向きでスキャンする場合、ページの欠損を防ぐために [用紙サイズ] 設定を [スキャナー] [最大] に設定します。
- 入力エレベータの高さは [詳細プロパティ] の [一般] 画面で設定します。

一般

ソース — ADF、パネル給紙、手差しが選択できます。

- **ADF**：通常のスキャン モードです。スキャナーの起動時に入力エレベータに原稿がセットされていると、自動的にスキャンが開始します。入力エレベータに用紙がない場合（また、[用紙切れ] のエラーアクションが [自動解決] に設定されている場合）、用紙がセットされるとスキャナーはスキャンを再開します。
- **パネル フィード**：用紙がスキャナーに給紙されるタイミングを制御できます。スキャンアプリケーションがスキャナーを起動して [パネル給紙] モードに設定されている場合、[オペレータ待ち] メッセージが表示され、スキャナーは [停止] 状態に移行します。スキャンを開始するにはオペレータ コントロールパネルで [スタート/再開] を選択します。

注：スキャナーの [停止/一時停止] ボタンまたはオペレータ コントロールパネルの [停止/一時停止] を選択するとスキャンがキャンセルされ、スキャナーは [待機] 状態に移行します。

[パネル給紙] を選択すると、[用紙切れ] エラーはスキャナーで解決されます。[詳細プロパティ] の [一般] タブの [用紙切れ] - [スキャナーで解決] の設定に似ています。スキャン中に用紙を追加したら、[スタート/再開] ボタンを押します。[パネル給紙] モードと [用紙切れ - スキャナーで解決] の違いは、バッチスキャン開始時にオペレータのアクションを待つ必要があるかどうかです。

[パネル給紙] はスキャナーに給紙する前にオペレータ コントロールパネルの [優先処理] 画面を開き、[重送検知]、[印字]、[排紙方法] を設定するために使用します。

- **[手差し]**：ADF モードに似ています。[手差し] モードの場合は入力エレベータの高さ設定が 25 枚（最上位置）に強制的に変更されます。スキャナーを起動して入力エレベータに原稿がセットされていると、入力エレベータは自動的に最上位置に上昇します。ADF が選択した場合、入力エレベータの高さはスキャン後に元の高さに戻ります。

[保存先] — 複数の保存先オプションはコダック i5000V シリーズスキャナーでサポートされていません。

[解像度 (DPI)] — スキャンの解像度を指定します。i5000V シリーズスキャナーでは表面と裏面を異なる解像度でスキャンできません。

[用紙サイズ] (ISO) — 横向きモードで A4 またはレターサイズ of 用紙を給紙した場合にページ画像の上端と下端の欠損を防ぐために、*[用紙サイズ]* を **[スキャナー最大]** (12 ~ 17 インチ) に設定することを推奨します。選択した設定値よりも長いページは、設定値に合わせて右端が切り取られます。

方向 — 給紙する方向に合わせて **[横向き]** または **[縦向き]** を選択します。12 インチ以上の長さではこの設定は適用されません。

[カラー モード] — 作成する画像のビット深度を指定します。

白黒 = 1 bit

グレースケール = 8 bit

カラー = 24 bit

[カラー切り替えパッチ] モードを使用時に、カラー / 白黒で切り替える場合は **[カラー]**、グレースケール / 白黒で切り替える場合は **[グレースケール]** を *[カラー モード]* に設定します。**[カラー切り替えパッチ]** モードを使用している場合は、**[白黒]** は指定できません。

その他

- **自動長さ検知** : i5000V シリーズスキャナーは常にスキャンしたページの長さを検知します。**[自動長さ検知]** の設定は変更できません。
- **連続給紙** : 17 インチ以上 (17.1 ~ 40 インチ) の原稿をスキャンする場合に選択します。
- **手動スタート** : このオプションはコダック i5000V シリーズスキャナーでは使用できません。

スキャン面

- **片面** : 入力エレベータにセットされた原稿の表面をスキャンする場合に選択します。
- **両面** : 入力エレベータにセットされた原稿の両面をスキャンする場合に選択します。裏面のみのスキャンはサポートされていません。

タイムアウト

- **[スキャン開始 (秒)]** : コダック i5000V シリーズスキャナーはここで設定することはできませんが、**[詳細プロパティ]** の **[一般]** タブから設定できます。

[オプション] — [オプション] をクリックすると、[ソース プロパティ] 画面が表示されます。VCDemo で [オプション] を選択すると、アプリケーションがどのようにスキャン後の VRS イメージ処理を行うか確認できます。

ソース プロパティ

表面 - 四角形のピックアップ

有効

英吋 [インチ]

ピクセル

上: 0.00

左: 0.00

幅: 0.00

高さ: 0.00

裏面 - 四角形のピックアップ

有効

インチ

ピクセル

上: 0.00

左: 0.00

幅: 0.00

高さ: 0.00

表面回転

0 90 180 270

裏面回転

0 90 180 270

表面の白紙ページ削除しきい値

しきい値 [バイト]: 0

裏面の白紙ページ削除しきい値

しきい値 [バイト]: 0

オプション

スキャン前 [キャッシュ]: 1

ページタイムアウト [秒]: 15

OK キャンセル

[ソース プロパティ] 画面の設定は、VRS の処理後のイメージの編集を制御します。この画面のオプションは通常は使用しません。VRS またはコダック i5000V シリーズスキャナーには似たような結果をもたらす機能が提供されています。例えば、スキャン前に原稿の向きを揃えずにページの上部が常に左側にくるようにすべてのスキャン画像の方向を変えたい場合、VRS の [自動回転] オプションを使用すればスキャン画像を可読方向に自動的に調整します。次に VRS はスキャン後の処理として、すべての画像を 270 度回転させて、すべてのページの上部を左側に向けます。他にも、スキャン後の VRS 処理はスキャン面ごとに処理するため、データ量が少ない表面を削除せずに裏面の白紙ページ削除できるというメリットがあります。

[四角形のピックアップ] — この画面のオプションは [詳細プロパティ] 画面の [四角形のピックアップ] 画面のオプションと同じです。両方の [四角形のピックアップ] 画面のオプションを有効にした場合、[詳細プロパティ] の [四角形のピックアップ] のオプションが最初に画像に適用され、次にスキャン後の処理として VRS の [四角形のピックアップ] 画面のオプションが処理された画像に適用されます。

[表面 / 裏面の回転] — この画面のオプションは [詳細プロパティ] 画面の [回転] 画面のオプションと同様です。VRS からの出力時に回転が適用される以外は VRS の回転処理の機能と同じです。[詳細プロパティ] の [回転] 画面で指定した回転が最初に適用され、次に VRS の [表面 / 裏面の回転] の選択と画像の内容に応じて適用されます。

注：裏面の画像回転は表面と 180 度ずれています。したがって、上部を左側に向けて両面スキャンを行った場合、文字列の向きに合わせるためには表面の回転を 90 度に、裏面の回転を 270 度に設定する必要があります。

[表面 / 裏面の白紙ページ削除しきい値] — 指定したしきい値のバイト数と画像ファイルのサイズを比較します。画像ファイルのサイズが指定したしきい値よりも小さい場合、画像は削除され、スキャンアプリケーションには送られません。このオプションのメリットは、[表面] と [裏面] のオプションを個別に指定でき、白紙ページ検知を裏面だけに適用できます。一方で、画像ファイルサイズに基づく検知は VRS で提供されている文字量基準の白紙ページ検知よりも精度が低いというデメリットがあります。また、画像ファイルサイズに基づく白紙ページ検知は、JPEG 圧縮の影響によってカラーやグレースケール画像では十分に機能しません。

オプション: [スキャン前 (キャッシュ)、ページタイムアウト (秒)] — コダック i5000V シリーズスキャナーではこのオプションは使用できません。

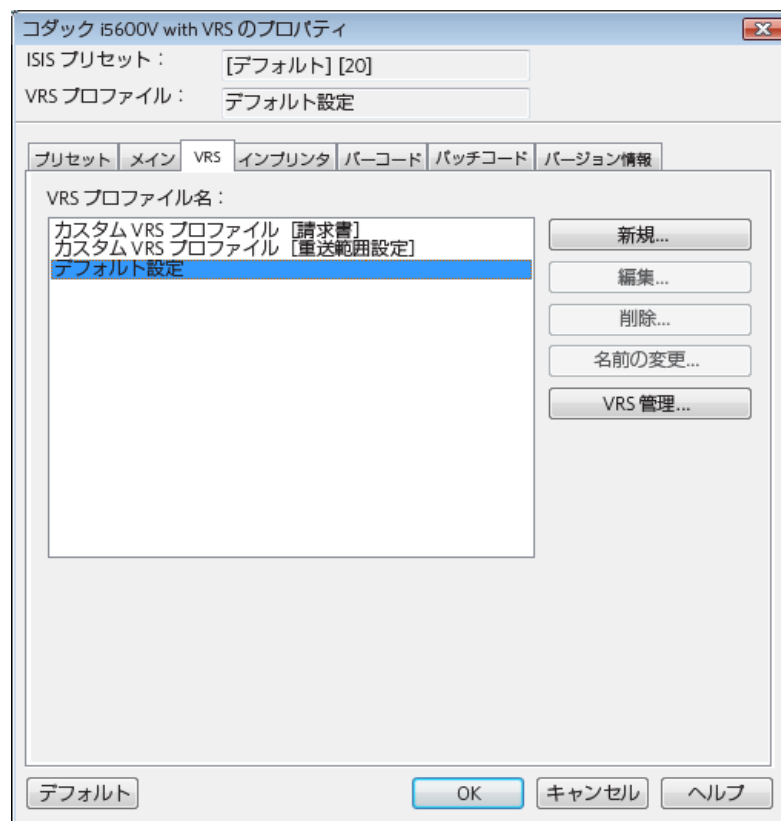
[詳細] — 選択すると [Kofax VRS インタラクティブ ビューア] 画面が表示されます。

PixKofax

VRS の [PixKofax] インターフェイスでは、アプリケーションから ISIS ドライバでスキャンできます。コダックキャプチャ プロ ソフトウェアを筆頭に、多くの業務用スキャン アプリケーションはスキャナーのインターフェイスに ISIS ドライバを採用しています。i5000V シリーズスキャナーに同梱の VRS に含まれている PixKofax インターフェイスは、コダック i5000V シリーズスキャナーのインターフェイスとして ISIS ドライバを採用しているアプリケーションの使用が可能になります。

コダックキャプチャ プロ ソフトウェアで PixKofax インターフェイスを使用して i5000V スキャナーのオプションを開くには、コダックキャプチャ プロ ソフトウェアを起動して [ページセットアップ] メニューを開きます。[イメージ] タブで [設定] をクリックします。PixKofax のインターフェイスが表示されます。

注： PixKofax のインターフェイスの開き方はアプリケーションによって異なります。



PixKofax のインターフェイスからは基本的なスキャン オプション（カラー モード、解像度、片面 / 両面など）のみ設定できます。他の詳細オプションやスキャナーハードウェアの機能などは VRS や [スキャナーの詳細プロパティ] 画面から設定します。

通常、ISIS アプリケーションはスキャナーの設定をスキャン アプリケーション内に保存する方法を提供します。多くの場合、スキャン ジョブごとにスキャナー設定を保存できる [ページセットアップ] や [スキャナー プロファイル] リストが提供されています。これらのアプリケーションでは、[PixKofax] 画面で変更されたスキャナー設定と、基本的なスキャナー設定で使用する VRS スキャナー プロファイルを保存します。例えば、コダック キャプチャ プロ ソフトウェアはページセットアップを使用し、EMC の Quicksan はスキャナー プロファイルを使用します。これらのアプリケーションでは、PixKofax プリセットを使用する必要はなく、ページセットアップの管理に混乱を及ぼす場合があります。コダック キャプチャ プロ ソフトウェアを使用する場合は、PixKofax プリセットを無視することを推奨します。コダック キャプチャ プロ ソフトウェアを使用する場合は、「[デフォルト]」の PixKofax プリセットがあるかもしれませんが、問題はありません。必要に応じて、デフォルトの PixKofax *.IDP ファイルを一時的に削除してください。

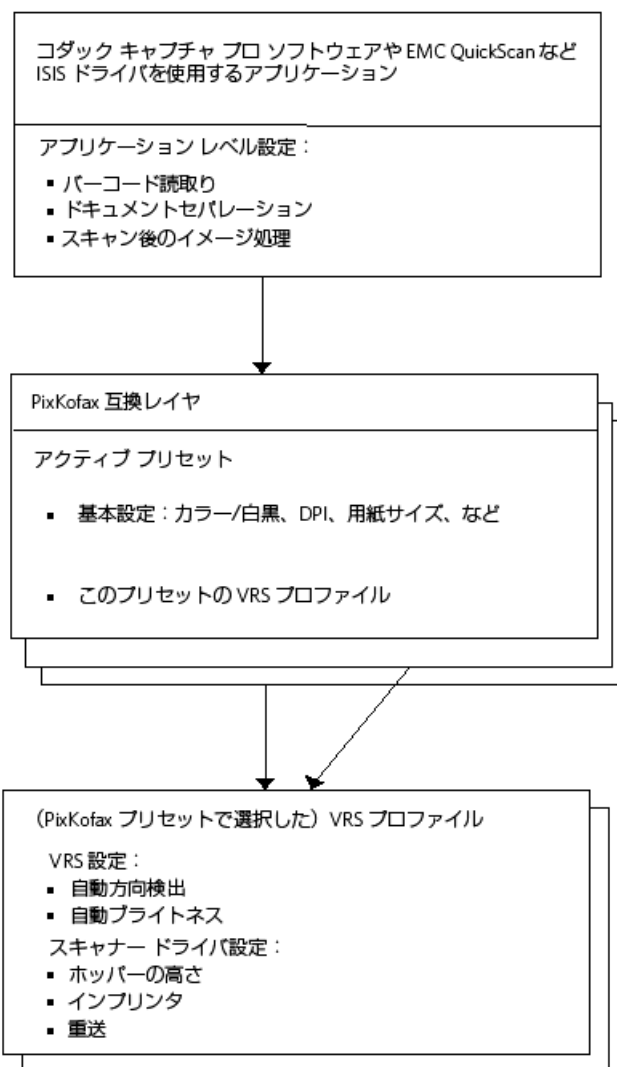
PixKofax のプリセットには VRS 画像とスキャナードライバの [詳細プロパティ] 設定がありますが、VRS の [管理コンソール] 画面での設定はありません。VRS の [Administration Console 例外処理] 設定は包括的なので、VRS プロファイルやページセットアップにはリンクされません。

ISIS ドライバを使用するアプリケーションは通常バーコードとパッチコード処理があるので、PixKofax のバーコードとパッチコードの設定は使用しません。コダック キャプチャ プロ ソフトウェアはこれらのタブで実施した変更内容を保存しますが、機能はコダック キャプチャ プロ ソフトウェアに完全に統合しているため無視されます。

コダック i5000V シリーズスキャナーにはインプリンタやアノテーションオプションが用意されていますが、PixKofax では十分にサポートされていません。i5000V シリーズスキャナーで提供されているインプリンタとアノテーション機能（プリンタ アクセサリを購入しないでスキャン画像にアノテーションを付加する機能など）を活用する場合は、印字やアノテーションの設定をスキャナードライバの [詳細プロパティ] の印字設定から行なってください。

アプリケーションは PixKofax の設定を無視するか、PixKofax で変更する必要がない設定を無効にする場合があります。コダック キャプチャ プロ ソフトウェアは、PixKofax の設定を無視しませんが、デフォルトのページセットアップは用紙サイズをスキャナーの最大幅と最大長（最大 17 インチ）に設定します。17.1 から 40 インチの原稿をスキャンする場合は、PixKofax の [メイン] タブで [長尺] オプションを選択する必要があります。

スキャン設定を保存しない ISIS ドライバ対応のアプリケーションでは、各スキャン要件に応じて固有の名前（「200 dpi カラー」、「請求書」など）の PixKofax プリセットを作成することを推奨します。スキャン要件が大きく異なる場合は、各 PixKofax プリセットに対して単一の VRS プロファイルが使用できます。一方で、ジョブの要件が大きく異なる場合は、各 PixKofax プリセットに対してプリセットに関連した名前（「200 dpi カラー - VRS」、「請求書 - VRS」など）の VRS プロファイルを個別に使用することを推奨します。

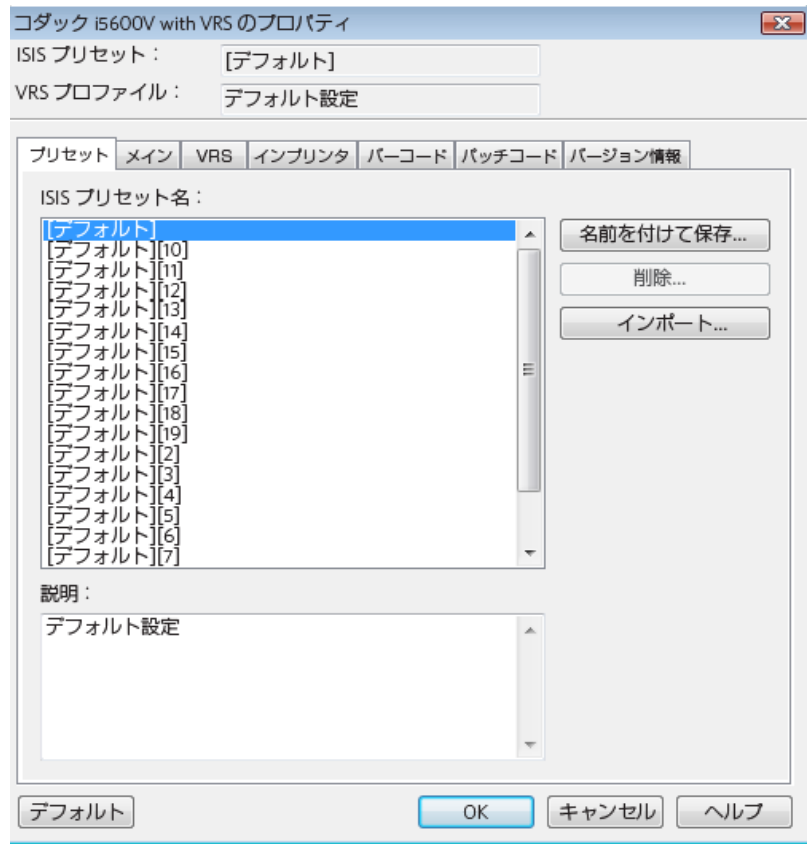


注：PixKofax プリセットでアクティブな VRS プロファイルは、常に PixKofax インターフェイスの上部に表示されます。

PixKofax によるプリセットの設定

プリセットとは特定のイメージとスキャナー設定です。スキャン要件に合わせて、カスタマイズされたプリセットを作成できます。たとえば、「請求書」という名前のプリセットを作成して、すべてのイメージ処理選択を保存することができます（解像度：200、カラーモード：白黒、両面、など）これによって、「請求書」プリセットを選択するだけで、請求書をバッチでスキャンできます。

PixKofax ドライバのタブには、それぞれのタブと [プレビュー] ウィンドウに関連付けされた一般的なボタンが用意されています。



[ISIS プリセット] — 現在のプリセットを表示します。

[VRS プロファイル] — 現在の VRS プロファイルを表示します。

名前を付けて保存 — [プリセットの保存] ダイアログボックスを表示し、新しいプリセット名の入力と設定を保存します。

削除 — 選択したプリセットを削除します。削除を選択すると、確認を求めるメッセージが表示されます。プリセットは1度に複数削除できません。

インポート — 選択すると、ISIS ドライバプリセットファイル (.IDP) を ISIS ドライバプリセットフォルダにコピーします。エクスポートオプションはないので、1 つのシステムから別のシステムにプリセットを移動、またはコピーする場合は、PC の以下の場所からプリセットファイルをコピーしておく必要があります。

• **Windows Vista/Windows 7 の場合 :**

C:\Program Data\ISIS Drivers\Presets\leki9000\PIXKOFAX\Kofax VRS Scanner

• **Windows XP の場合 :**

C:\Documents and Settings\All users\Application Data\PIXKOFAX\Kofax VRS Scanner

[デフォルト] — 選択すると、「デフォルト」プリセットの設定をデフォルトに復元します。

[OK] — 現在のプリセットに適用した設定を新しい設定として保存し、メインウィンドウを閉じます。プリセットの新しい名前は「{プリセット名} [#]」になります (# はバージョン番号)。

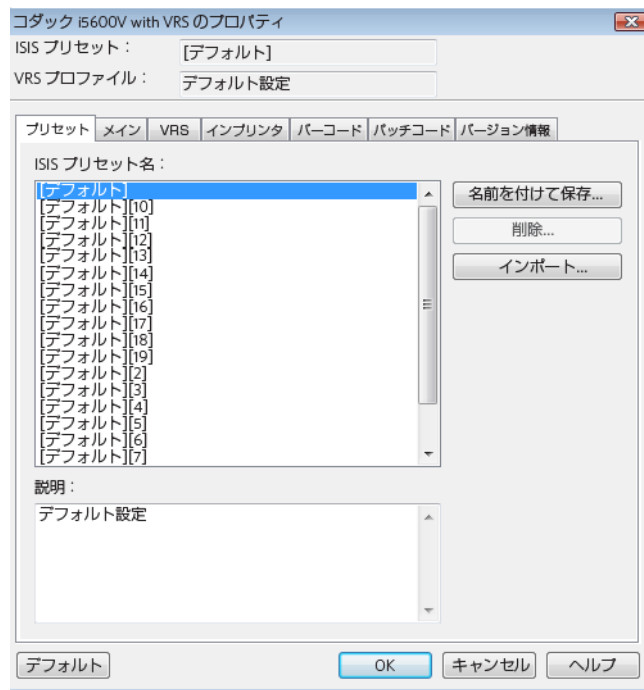
注 : **[OK]** をクリックすると、現在の ISIS ドライバのすべての設定 (ページセットアップ) が保存されます。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、メインウィンドウを閉じます。

ヘルプ — 現在表示されているタブのヘルプ情報を表示します。

[プリセット] タブ

[プリセット] タブには、以下のオプションがあります。



[ISIS プリセット名リスト] — 使用可能なプリセットを表示します。

説明 — 現在選択しているプリセットに関する情報を入力できます。

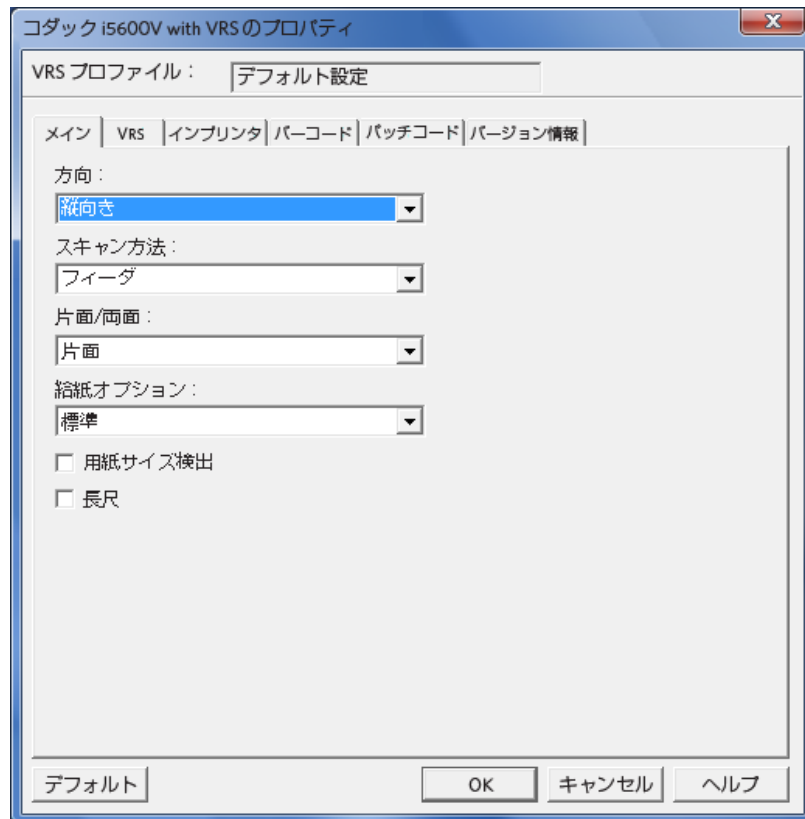
注 :

- コダック キャプチャ プロ ソフトウェアは [PixKofax] ウィンドウを閉じるか、**[OK]** をクリックするとページセットアップのすべての ISIS 設定を保存します。
- デフォルトのプリセットは、PixKofax ドライバ内では変更できません。
- プリセットを変更すると、名前にバージョン番号が括弧付きで追加され、リストに新しいプリセットとして追加されます。たとえば、「デフォルト」は「デフォルト [1]」になります。**[名前を付けて保存]** を選択せずに「デフォルト [1]」を変更すると、ドライバはそのプリセットに「デフォルト [2]」という名前を付けます。
- 新しいプリセットは最初に ISIS ドライバセットアップを開いた時点で作成できます。スキャンアプリケーションが ISIS ドライバの設定をページセットアップに格納していれば問題はありません。
- 新規プリセット作成時にスキャン アプリケーションが ISIS 設定を保存しない場合、変更ごとにバージョンが更新されてしまいます (デフォルト [1]、デフォルト [2] など)。同じプリセットのバージョンが増えすぎないようにするには、必ず **[名前を付けて保存]** ボタンを使用して、不要なバージョンの名前を変更してから **[OK]** をクリックしてドライバを終了します。
- 多くのプリセットを素早く削除するには、Windows エクスプローラから [プリセット保存] ディレクトリを開いて、*.IDP ファイルを手動で削除してください。

重要: [名前を付けて保存] ボタン、または [OK] をクリックして、変更したプリセットを保存しなかった場合、選択ボックス内の別のプリセットが強調表示されると、最後の保存以降そのプリセットに対して行われた変更は失われ、新しいプリセットは削除されます。

[詳細設定] タブ

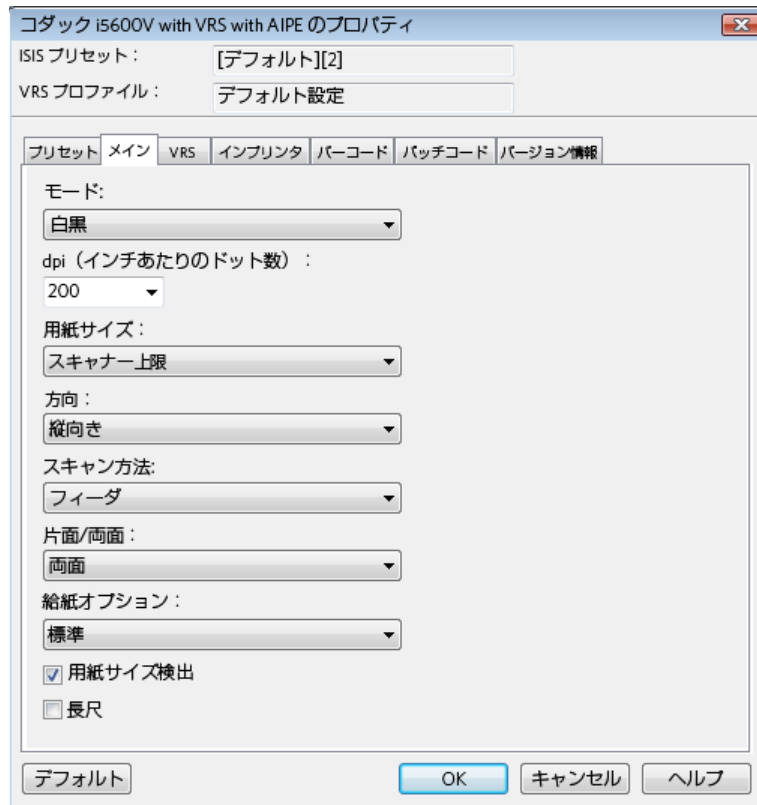
スキャンアプリケーションで ISIS ドライバのプリセット機能が有効になっている場合は ([詳細設定] と称される場合もあります)、ユーザーインターフェイスに 9 のタブが表示されます。この場合、[プリセット] タブはなく、[メイン] タブには [モード]、[dpi (1 ドット/インチ)] または [用紙サイズ] のオプションはありません。



[詳細設定] にない機能は、スキャンアプリケーションのその他に含まれている場合があります。[詳細設定] インターフェイスを使用した場合、例えば dpi はスキャンアプリケーションから設定する必要があります。

[PixKofax メイン] タブ

[メイン] タブでは、ウィンドウの上部に表示されている ISIS プリセットの基本的なスキャナー設定の表示と変更が可能です。



[モード] — 各画像に対して [白黒]、[グレースケール]、[カラー] を指定したり、[自動カラー検知] を指定できます。PixKofax プリセットで有効にすると、[自動カラー検知] 設定は VRS プロファイルで調整できます。

注：[カラー切り替えパッチ] モードが有効の場合、[自動カラー検知] は適用されません。

[dpi (1 ドット/インチ)] — 出力画像の解像度を指定します (100、150、200、240、300、600 dpi)。

[用紙サイズ/方向] — 用紙サイズと方向を指定して、スキャン範囲(最大原稿サイズ)を制限します。[用紙サイズ] は常に [スキャナー最大] (12 ~ 17 インチ) に設定することを推奨します。[用紙サイズ] を [US レターサイズ] にして、[方向] を [縦向き] に設定した場合に、A4 や レターサイズ用の紙がスキャナーに横向きで給紙されると、イメージ回転や自動回転が有効でも画像の上端と下端が欠損します。A4 以上に長いサイズは必ず縦向きにスキャンします。

[スキャン方法] — i5000V シリーズスキャナーはフラットベッドをサポートしていないため、スキャン方法は常に [フィーダ] に設定されます。

[片面 / 両面] — 原稿の表面のみをスキャンする場合は **[片面]**、原稿の両面をスキャンする場合は **[両面]** を選択します。**[片面]** を選択した場合、裏面のみのスキャンはできません。

[給紙オプション] — このオプションの概要については上述の「VCDemo」セクションを参照してください。

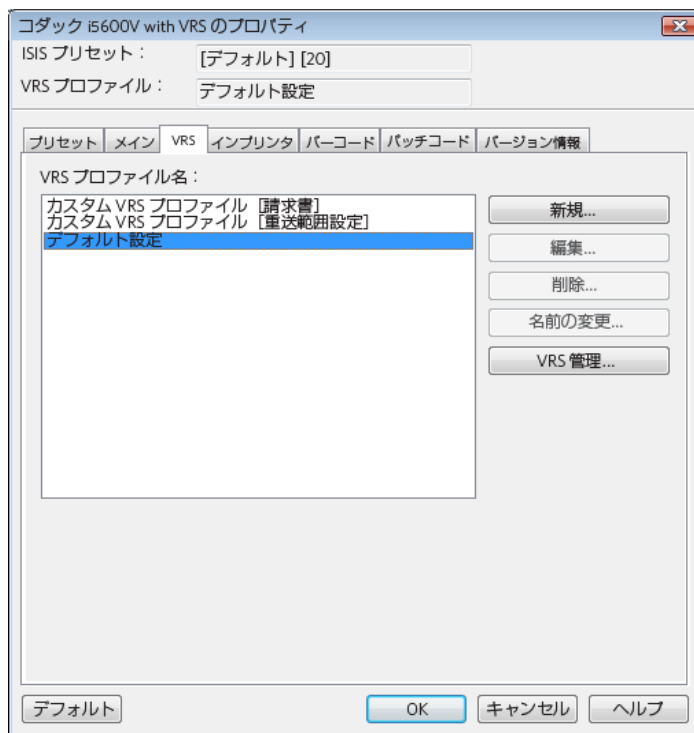
- **[標準]** は VCDemo における **[ADF]** と同じです。
- **[スタート ボタンで開始]** は VCDemo における **[パネル給紙]** と同じです。
- **[手差し給紙]** は VCDemo における **[手差し]** と同じです。

[用紙サイズ検知] — **[VRS インタラクティブ ビューア]** で重送が検知された場合に、クロッピングが正常に行われたかを確認するために使用します。

[長尺] — 17 ~ 40 インチの原稿のスキャンに使用します。

[PixKofax VRS] タブ

[VRS] タブではそれぞれの ISIS プリセットやアプリケーションの設定（ページセットアップ）に関連付けられた新しいVRS プロファイルを作成したり、VRS Administration Console が開く事ができます。



VRS プロファイルはデフォルトで有効にされていない VRS やスキャナーの機能（スキャナードライバの [詳細プロパティ]）を有効にするために作成できます。例えば、用紙にレシートが貼りつけられた原稿をスキャンするために重送無視範囲を設定したい場合などに、新しく VRS プロファイルを作成します。スキャナードライバの [詳細プロパティ] は VRS 設定に含まれているため、スキャナードライバの [詳細プロパティ] での変更は VRS プロファイルに VRS 画像設定とともに保存されます。[VRS Administration Console] の設定（エラー処理など）は VRS プロファイルには保存されません。

[VRS プロファイル名] — 現在の VRS プロファイルをリスト表示します。

[新規] — 既存のプロファイルを基に新しい VRS プロファイルを作成します。

[編集] — [VRS インタラクティブ ビューア] の [編集プロファイル] インターフェイスが開き、VRS オプションを設定したりスキャナードライバの [詳細プロパティ] を開きます。

[削除] — VRS プロファイルを削除します。

[名前変更] — VRS プロファイルの名前を変更します。

[VRS 管理] — [VRS Administration Console] を起動します。

注：

- VRS プロファイルのデータは *.cps ファイルで保存されます。
- 「デフォルト設定」VRS プロファイルは変更できません。
- VRS プロファイルは複数のホストページセットアップや ISIS プリセットで使用される場合もあるので、削除の際は注意してください。

[PixKofax インプリンタ] タブ

[PixKofax インプリンタ] タブは、コダック i5000V シリーズスキャナーで提供されている高度な印字や電子署名のオプションを十分にサポートしていません。このインターフェイスから印字を有効にできますが、このタブは無視することを強く推奨します。コダック i5000V シリーズスキャナーの印字やイメージのアノテーションの設定はスキャナードライバの [詳細プロパティ] のコントロールを使用してください。

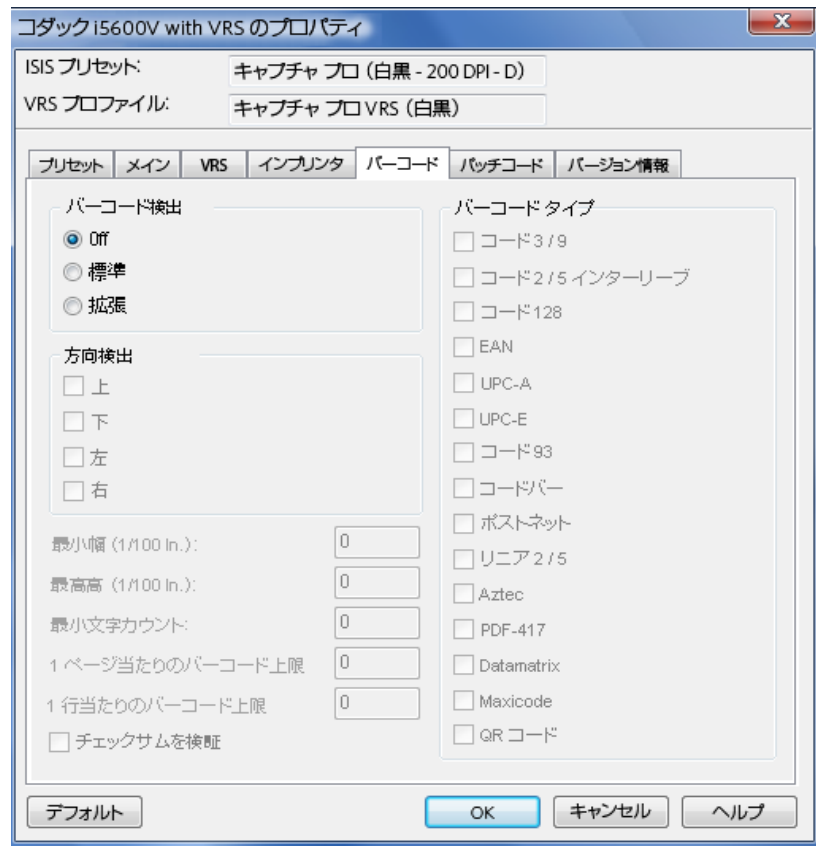
The screenshot shows a dialog box titled "コダック i5600V with VRS のプロパティ" (Kodak i5600V with VRS Properties). The "インプリンタ" (Impression) tab is selected. At the top, there are fields for "ISIS プリセット:" (ISIS Preset) set to "[デフォルト][20]" and "VRS プロファイル:" (VRS Profile) set to "デフォルト設定" (Default Settings). Below these are several tabs: "プリセット", "メイン", "VRS", "インプリンタ", "バーコード", "バッチコード", and "バージョン情報". The "インプリンタ" tab contains the following settings:

- 署名を有効化 (Enable Signature)
- 注釈を有効化 (Enable Annotations)
- 署名テキスト: [Empty text field]
- カウンタ (Counter):
 - 有効 (Enabled)
 - カウンタ開始: [0]
 - カウンタ増分: [0]
 - カウンタ桁: [1]
- Orientation:
 - 0 度
 - 90 度
 - 180 度
 - 270 度
- 単位 (Unit):
 - ピクセル
 - インチ
 - センチ
- 署名上端オフセット: [0 ピクセル]
- 注釈左端オフセット: [0 ピクセル]
- 例: [Empty text field]

At the bottom of the dialog are buttons for "デフォルト" (Default), "OK", "キャンセル" (Cancel), and "ヘルプ" (Help).

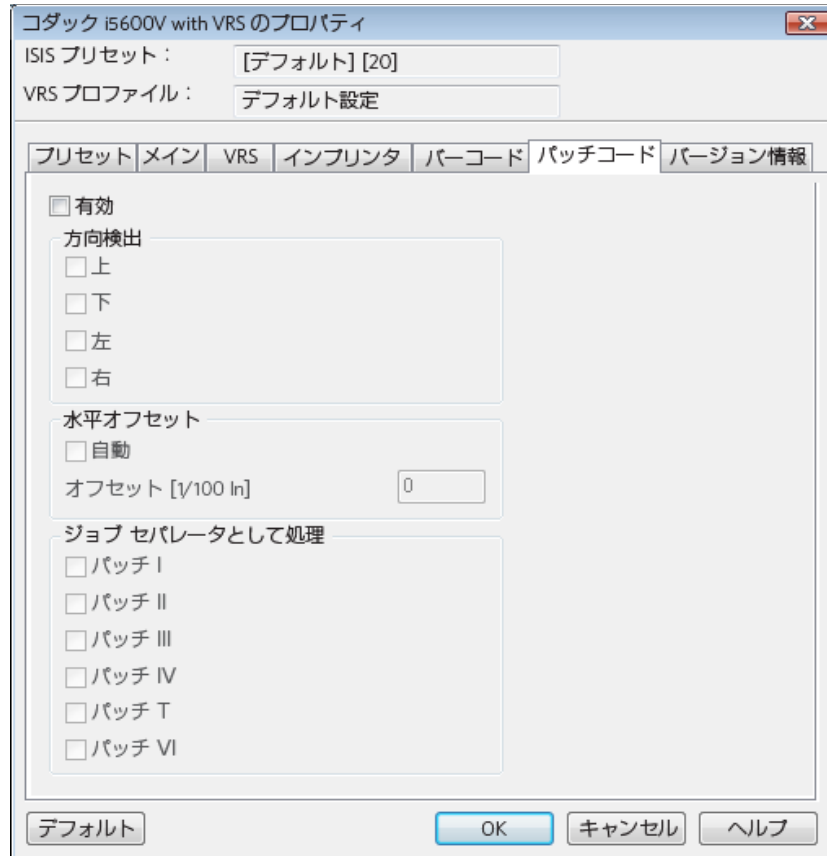
[PixKofax バーコード] タブ

[PixKofax バーコード] タブではアプリケーションが PixKofax にアクセスする事で Kofax AIPE のバーコード読取り機能が使用可能になります。スキャン アプリケーションにバーコード読取り機能がある場合、通常は [PixKofax バーコード] タブは使用しません。詳細についてはアプリケーションの販売店に問い合わせてください。コダック キャプチャ プロ ソフトウェアでは Kofax AIPE のバーコード読取りは使用しません。コダック キャプチャ プロ ソフトウェアでのスキャン時に実施されたこのタブへの変更は保存されますが、適用はされません。



[PixKofax パッチ] タブ

[PixKofax パッチ] タブではアプリケーションが PixKofax にアクセスする事で Kofax AIPE のパッチ読取り機能が使用可能になります。スキャンアプリケーションにパッチ読取り機能がある場合、通常は [PixKofax パッチ] タブは使用しません。詳細についてはアプリケーションの販売店にお問い合わせください。コダックキャプチャプロソフトウェアでは Kofax AIPE のパッチ読取りは使用しません。コダックキャプチャプロソフトウェアでのスキャン時に実施されたこのタブへの変更は保存されますが、適用はされません。



[PixKofax バージョン情報]
タブ

このタブには PixKofax ドライバのバージョンが表示されます。



[TWAIN Kofax]

VRS の [TWAIN Kofax] インターフェイスを使用すると、アプリケーションは TWAIN インターフェイスから原稿をスキャンできます。大容量の業務スキャン向けに設計されていないアプリケーションでは、ほとんどの場合 TWAIN インターフェイスから画像をスキャンします。いくつかのイメージビューアには TWAIN スキャン機能が用意されています。コダック i5000V スキャナーに同梱されている VRS には TWAIN Kofax レイヤが含まれています。[TWAIN Kofax] インターフェイスはスキャンバリデーションツールを使って開きます。

[TWAIN Kofax レイヤ] を開くには以下の手順に従います。

1. [TWAIN ソース選択] を開きます。
2. [Kofax Software VRS-TWAIN] を選択します。
3. [取得] をクリックします。

注：オプションの名前は多少異なる場合があります。

4. スキャンバリデーションツールの場合、[ドライバタイプ] から [TWAIN]、[ドライバ]から [Kofax Software TWAIN] を指定します。
5. [セットアップ] をクリックします。

注：[TWAIN Kofax] インターフェイスでコダック i5000V スキャナーを使用する場合、基本的なスキャンオプションは [TWAIN Kofax] インターフェイスで設定します。基本的な設定としてカラーモード、スキャン解像度、片面 / 両面などの設定があります。他の詳細オプションやスキャナーハードウェアの機能などは VRS やスキャナードライバの [詳細プロパティ] から設定します。

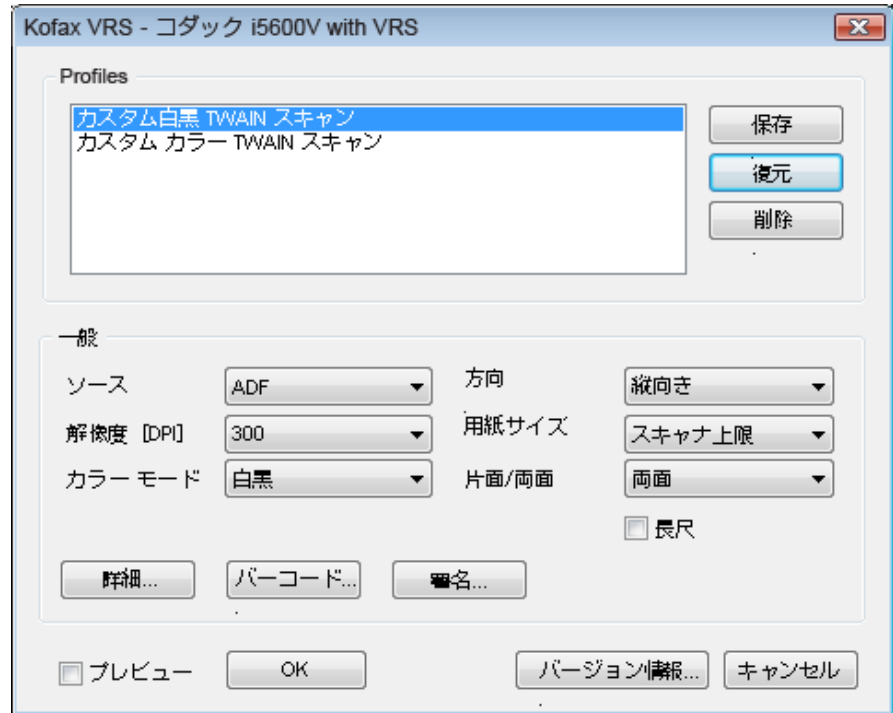
スキャンアプリケーションがスキャンのセットアップを設定でき、Adobe Acrobat Professional など「スキャナーのネイティブインターフェイスを覆う」プログラムを使用すると、[TWAIN Kofax] セットアップ画面を表示しないでスキャンができます。

アプリケーションのコントロールのみを使用する場合、コダック i5000V スキャナーの高度な機能は使用されず、デフォルト設定が適用されます。

TWAIN スキャンアプリケーションでは、TWAIN Kofax ドライバのバーコード読取り機能をサポートしない場合があります。アプリケーションでバーコードデータの取得がサポートされていない場合、TWAIN Kofax の [バーコード設定] 画面は無視してください。

TWAIN Kofax の [メイン] 画面

TWAIN Kofax の [メイン] 画面には基本的なスキャン オプションが用意されています。



[プロフィール] — 使用可能なプロフィールをリスト表示します。TWAIN プロファイルは TWAIN Kofax の設定をまとめたものです。他の設定 (VRS プロファイルやスキャナードライバの [詳細プロパティ]) は TWAIN Kofax プロファイルに含まれません。

TWAIN Kofax プロファイルのデータは XML フォーマットで「KPMTWDS Profiles.xml」ファイルに保存されます。このファイルは C:\Programs\Data\Kofax(VRS) (Windows Vista および Windows 7) に保存されています。

スキャン アプリケーション内にスキャナーの設定を保存できる場合、TWAIN Kofax プロファイルは使用しないでください。デフォルトでは、TWAIN Kofax プロファイルはありません。

TWAIN Kofax プロファイルの作成方法：

- [メイン] 画面で任意のスキャン オプションを設定して [保存] をクリックします。

注：

- リストに複数のプロフィールが表示されている場合、任意のプロファイルをハイライト表示させて [復元] をクリックします。[復元] をクリックすると、選択したプロフィールがアクティブになります。
- VRS プロファイルとスキャナードライバの [詳細プロパティ] は TWAIN Kofax プロファイルにリンクしていません。変更されない限り、最後にアクティブだった VRS プロファイルがスキャン時に適用されます。

[保存] — 新しい TWAIN Kofax プロファイルが作成されます。既存のプロファイルを更新する場合も [保存] をクリックします。

[復元] — プロファイルを変更する場合、**[復元]** をクリックして選択したプロファイルをアクティブにする必要があります。既存のプロファイルを選択してから **[復元]** をクリックしないと、最後に選択したプロファイルの設定が適用されます。**[TWAIN Kofax]** インターフェイスを開いている場合は、アクティブなプロファイルはハイライト表示されません。

[削除] — 選択した **[TWAIN Kofax]** プロファイルを削除します。

[ソース] — 以下のいずれかを選択します。

- **ADF** : これが通常のスキャン モードです。スキャナー開始時に入力エレベータに原稿がセットされていると、自動的にスキャンが始まります。入力エレベータに用紙がない場合（且つ、**[用紙切れ]** のエラー アクションが **[自動解決]** に設定されている場合）、用紙がセットされるとスキャナーはスキャンを再開します。入力エレベータの高さは **[詳細プロパティ]** 設定で調節します。
- **パネル フィード** : オペレータ コントロールパネルから **[スタート]** を選択することで、給紙するタイミングを制御できます。スキャン アプリケーションがスキャナーを起動して **[パネル給紙]** モードに設定されている場合、**[オペレータ待ち]** メッセージが表示され、スキャナーは **[停止]** 状態（オペレータ コントロールパネルで示される）に移行します。スキャンを開始するにはオペレータ コントロールパネルで必ず **[スタート / 再開]** を選択してください。スキャナーの **[停止 / 一時停止]** ボタンまたはオペレータ コントロールパネルの **[停止 / 一時停止]** を選択するとスキャンがキャンセルされ、スキャナーは **[待機]** 状態に移行します。入力エレベータの高さは **[詳細プロパティ]** の **[一般]** タブの設定で調節します。

[パネル給紙] モードの場合、**[用紙切れ]** エラーはスキャナーで解決されます。**[詳細プロパティ]** の **[一般]** タブで **[用紙切れ]**（**[スキャナーで解決]**）を設定する方法と似ています。スキャン中に用紙を追加した場合は必ず **[スタート / 再開]** ボタンを押してください。**[パネル フィード]** モードと **[用紙切れ - スキャナーで解決]** の違いは、バッチの最初のスキャンの際にオペレータのアクションを待つ必要があるかどうかです。

このオプションは通常スキャナーに用紙を給紙する前に **[重送検知]**、**[印字]**、**[排紙方法]** の **[優先処理]** オプションを選択するために使用します。

- **[手差し]** : ADF モードに似ています。**[手差し]** モードの場合は入力エレベータの高さが 25 枚（最上位置）に変更されます。スキャン開始をしてから入力エレベータに原稿がセットされていると、入力エレベータは自動的に最上位置に上昇します。ADF が設定された場合、入力エレベータの高さはスキャン後に元の設定位置に戻ります。
- **[保存先]** : 複数の保存先のオプションはコダック i5000V シリーズスキャナーでサポートされていません。

[解像度 (DPI)] — スキャン解像度を指定します。i5000V シリーズスキャナーは表面と裏面を異なる解像度でスキャンできません。

[カラーモード] — 生成する画像のビット深度を指定します。

白黒 = 1 bit

グレースケール = 8 bit

カラー = 24 bit

[カラー切り替えパッチ] モードを使用時に、カラー/白黒で切り替える場合は **[カラー]**、グレースケール/白黒で切り替える場合は **[グレースケール]** を **[カラーモード]** に設定します。**[カラー切り替えパッチ]** を使用している場合は、**[白黒]** は指定できません。

[方向] — 給紙する方向に合わせて **[横向き]** または **[縦向き]** を選択します。12 インチ以上の長さではこの設定は適用されません。

[用紙サイズ] — 横向きで A4 またはレターサイズの用紙を給紙した場合にページ画像の上端と下端のデータの欠損を防ぐために、**[用紙サイズ]** を **[スキャナー最大]** ((12 ~ 17 インチ) に設定することを推奨します。選択した設定値よりも長いページは、設定値に合わせて右端が切り取られます。

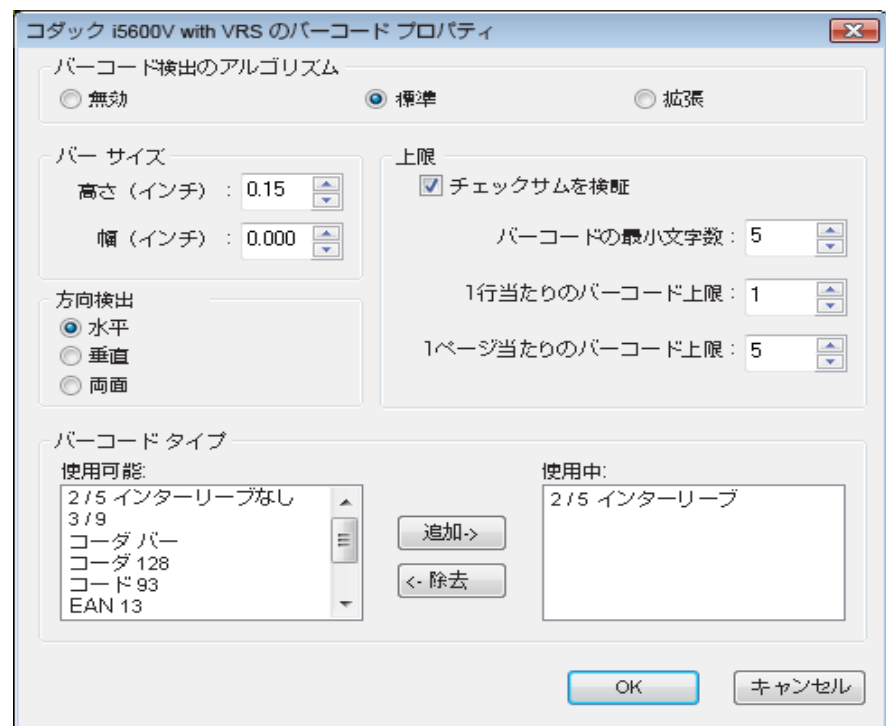
片面 / 両面 :

- **[片面]** : 表面のみをスキャンする場合に選択します。
- **[両面]** : 表面と裏面をスキャンする場合に選択します。裏面のみのスキャンはサポートされていません。

[長尺] — 17 ~ 40 インチの長い原稿をスキャンする場合に選択します。

[詳細] — **[VRS インタラクティブ ビューア]** を起動します。

[バーコード] — **[バーコード]** 画面を表示します。



[署名] — [署名] 画面を表示します。

コダック i5600V with VRS の署名と注釈のプロパティ

版下署名を有効化

表面の注釈を有効化

裏面の注釈を有効化

接続辞:
コダック i5600V

上: 0.50

左 [注釈のみ]: 0.00

単位

インチ

mm

ピクセル

ページ カウンタ

ページカウントを有効化

桁: 5

開始カウント: 1

ステップ値: 1

サンプル設定: コダック i5600V

OK キャンセル

[プレビュー] — 選択すると [品質調整] を自動的に [最初のページ] に設定します。

Kodak